

2021年度

冬季オリンピック・パラリンピック招致へ向けた市民対話事業

報告書

令和4年6月

札幌市スポーツ局招致推進部

目次

1	市民対話事業について-----	03
(1)	目的	--03
(2)	事業概要	--03
(3)	広報・周知活動	--04
2	子どもワークショップ(Zoomによるオンライン形式)-----	06
(1)	プログラム	--06
(2)	ワークショップでの意見(1月26日)	--08
(3)	ワークショップでの意見(1月29日)	--14
(4)	アンケート結果(1月26日)	--20
(5)	アンケート結果(1月29日)	--24
3	市民ワークショップ(Zoomによるオンライン形式)-----	28
(1)	プログラム	--28
(2)	ワークショップでの意見(2月9日)	--31
(3)	ワークショップでの意見(2月12日)	--46
(4)	アンケート結果(2月9日)	--59
(5)	アンケート結果(2月12日)	--68
4	シンポジウム-----	73
(1)	開催概要	--73
(2)	配信内容の概要	--74

1 市民対話事業について

(1) 目的

札幌市は、冬季オリンピック・パラリンピック競技大会の招致に向け、令和3年11月に会場計画や開催経費などをまとめた「2030北海道・札幌オリンピック・パラリンピック冬季競技大会概要（案）」を公表しました。この計画の更新にあたっては、市民の理解と共感を得られるものとする必要があるため、冬季オリンピック・パラリンピックを招致する意義や大会の開催に対する期待や懸念などについて、市民との対話を十分に行った上で、市民意見を反映させていくことが求められます。さらに新型コロナウイルス感染症の影響や、流行下において開催した東京2020大会の経験を経て、市民の生活様式や価値観が大きく変容しており、オリンピック・パラリンピックに抱く考え方、捉え方を改めて把握することが必要です。

本事業は、以上のような市民意見を得るとともに、市民のオリンピック・パラリンピックに対する意識と理解を高め、今後の招致機運醸成につなげていくことを目的としています。

(2) 事業概要

市民対話事業は、以下の目的、構成で開催しました。

①子どもワークショップ（Zoomによるオンライン形式）

2030年にこのまちの主役となる子どもたちに、冬季オリンピック・パラリンピックの理解を深めていただくことを目的として開催しました。

開催日時： 第1回 令和4年1月26日（水） / 18時00分～19時30分

第2回 令和4年1月29日（土） / 16時00分～17時30分

開催回数： 2回（2回とも同内容での実施）

配信場所： 札幌市役所10階 市長会議室（中央区北1条西2丁目）

参加者： 26日：38名（市内の小学校4～6年生）

29日：18名（市内の中学生・高校生）

②市民ワークショップ（Zoomによるオンライン形式）

冬季オリンピック・パラリンピック招致に向け、大会の開催に対する期待や懸念などの市民意見をいただくことを目的として開催しました。

開催日時： 第1回 令和4年2月9日（水） / 18時00分～19時30分

第2回 令和4年2月12日（土） / 16時00分～17時30分

開催回数： 2回（2回とも同内容での実施）

配信場所： 札幌市役所10階 市長会議室（中央区北1条西2丁目）

参加者：市内在住の18歳以上の市民64名（8日：35名、12日：29名）

※市民ワークショップは、当初第3回目を現地開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止いたしました。

③シンポジウム（YouTubeによるライブ配信とアーカイブ動画配信）

冬季オリンピック・パラリンピックを札幌市民により深く知っていただくことを目的として開催し、パラノルディックスキー日本チームゼネラルマネージャーの荒井秀樹さんによる「オリンピック・パラリンピックと共生社会」をテーマにした基調講演をベースに、オリンピック2名によるトークセッションやオリンピック、有識者などをパネリストとしたパネルディスカッションを実施しました。

開催日時：令和4年2月20日（日）13時30分～15時30分

開催回数：1回

開催場所：道新ホール

LIVE配信時間：2時間24分

視聴回数（ライブ配信）：366回

新規チャンネル登録者：5名

最大同時視聴者：109名

(3) 広報・周知活動

市民対話事業の周知や参加者の募集にあたっては、広報さっぽろ（2022年2月号）やSNS（札幌市公式ツイッター、LINE）などを活用し情報発信を行いました。

これらのほか、各事業について以下のような周知・参加者募集を行いました。

【各事業共通】

- ・市公式ホームページトップページへのバナー掲出
- ・スマイルサポーターズへのメール配信
- ・出前講座におけるチラシ配布

【子どもワークショップ】

- ・全市立小学校の4～6年生へのチラシ配布
- ・全市立中学校、高校の1～3年生へのチラシ配布

【市民ワークショップ】

- ・チラシ配架（区役所、地区センター、区民センター、まちづくりセンター、市立図書館、市内スポーツ施設）
- ・メール配信（CSRインフォメーションメルマガ会員、さっぽろまちづくりスマイル

企業認定制度登録企業、さっぽろまちづくりパートナー企業)

【シンポジウム】

- ・チラシ配架（区役所、地区センター、区民センター、まちづくりセンター、市立図書館、市内スポーツ施設）
- ・メール配信（CSR インフォメーションメルマガ会員、さっぽろまちづくりスマイル企業認定制度登録企業、さっぽろまちづくりパートナー企業）

【シンポジウム終了後】

- ・北海道新聞広告への掲載

2 子どもワークショップ（Zoomによるオンライン形式）

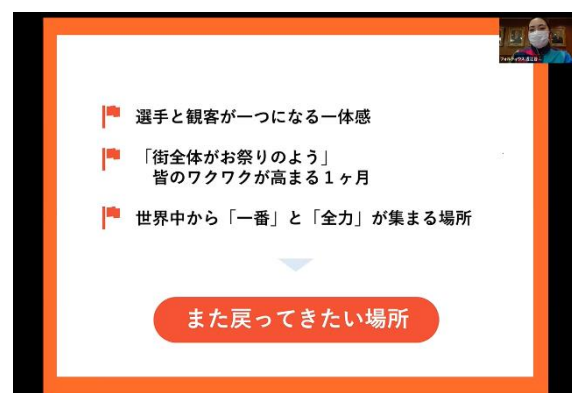
(1) プログラム

- ① 開会
- ② 近江谷 杏菜さんによる講話
- ③ 大会概要レクチャー
- ④ 質問タイム
- ⑤ ワークショップ
- ⑥ 閉会

◇近江谷 杏菜さんによる講話

2010年冬季オリンピックバンクーバー大会でカーリング8位入賞の経験があり、女子カーリングチーム フォルティウスに所属している近江谷 杏菜さんから、「挑戦」というテーマでカーリングの競技の説明や冬季オリンピックに出場したことで分かったオリンピックの素晴らしさについて、お話しいただきました。

【「近江谷 杏菜さんによる講話」資料抜粋】



◇大会概要レクチャー

本イベントの統括ファシリテーターより、2030年札幌オリンピック・パラリンピックに関するレクチャーをしていただき、札幌のまちについて改めて知り、50年前の1972年冬季オリンピック札幌大会で札幌のまちがどのように変化したのか等を学んでいただきました。

【「大会概要レクチャー」資料抜粋】



◇ワークショップ

「2030年 冬季オリ・パラをみんなで考えてみよう！」というテーマで、ワークショップを実施しました。各グループ（4名～6名程度）で、「現在の札幌のまちに対する好き度は10点満点中何点か」、「2030年に札幌大会を実施するとして、国内外から訪れる人が10点満点だと思ってくれる札幌のまちとはどんなまちか。そのために明日からできることは何か」、「大人になったら、大会にどのように関わりたいか」といった視点で、意見を出し合い、グループごとに結果を発表していただきました。

ゲストオリンピックの近江谷さんや秋元市長も各グループを巡回し、各グループ発表の際にはそれぞれの意見に対する感想を述べていただきました。

◇ファシリテーターについて

今回のワークショップは中立的な立場で議論を進めるために「札幌市環境局主催気候変動・SDGsアクションLabo」でのファシリテーション実績があり、フリーランスとして活動している「未来塾 NEONE」代表の馬場 航平さんに、統括ファシリテーターを務めていただきました。また、「幅広い年齢層の市民にご参加いただく」という目的に鑑み、グループワーク時には学生ファシリテーターを起用することで、若い年齢層の方々にも市民対話事業の運営に参画いただきました。

(2) ワークショップでの意見 (1月26日)

【Aグループ】

◆今現在の札幌のまちに対する皆さんの「好き度」は10点満点中何点ですか？

- ・10点：札幌市はポイ捨て等が少なく、きれいなまち。
- ・10点：人口が多いが、自然や観光資源が多く、観光客もたくさん来るから。
- ・10点：札幌のまちは人口が多いが、雪がたくさん降って雪で遊べるから
- ・10点：空気が綺麗だから（散歩とかしている時に感じる）。
- ・8点：札幌は雪が多いが、地下が歩きやすいから良いと思う。札幌市は夏のスポーツの施設が多くあると思うが、冬は利用しづらく感じるから、もう少しみんなが利用しやすくなったら良いと思う。
- ・8点：冬は雪が降って雪まつりとかイベントがたくさんあって良いが、地下鉄での犯罪が気になる。

◆2030年札幌オリンピック・パラリンピックを開催するとして、

国内外から訪れる人たちが10点満点だと思ってくれる「札幌のまち」は

どんなまちでしょうか？そのために明日から皆さんができること・したいことは何ですか？

- ・明日から頑張りたいことは、電気を節約しSDGsも意識して、みんなで同じ部屋に集まるなどして、電気を節約する。
- ・ボランティアとか、清掃活動に参加することで、札幌のまちがきれいになり、観光客が増えると思う。環境問題に取り組んでいくことが大事だと思う。
- ・まちをより綺麗にするために、自分の家の周りや学校に行く途中のゴミとかを拾ったりする。
- ・通学路への砂撒き。雪体験授業で、学校の周りで滑る場所がたくさんあるから、もっと砂を撒いたほうが良いと思う。
- ・除雪や雪除けをして道を広くし、オリンピックやパラリンピックをやれるようにしたい。

◆2030年札幌オリンピック・パラリンピックが開催されるとして、大人になった

皆さんは大会にどのように関わりたいですか？

- ・時間が足りず、上記について議論できず。

【Bグループ】

◆今現在の札幌のまちに対する皆さんの「好き度」は10点満点中何点ですか？

- ・9点：北海道から出たことないので他を知らないが、暮らしやすいから。
- ・8点：料理が美味しくて、特産品がたくさんあるところは良いが、雪が大変。
- ・10点：夏は他の場所より涼しくて過ごしやすい。冬の雪遊びが楽しい。
- ・7点：夏は遊びやすい気温なのが嬉しい。

◆2030年札幌オリンピック・パラリンピックを開催するとして、国内外から訪れる人たちが10点満点だと思ってくれる「札幌のまち」はどんなまちでしょうか？そのために明日から皆さんができること・したいことは何ですか？

- ・障がいのある人たちでも困らないように整備する。
- ・魅力がたくさんあって、きれいな景観と優しさが両立されているまちになってほしい。自分達にできることは、公園の利用のあとにごみを残さないこと。
- ・会場にスロープを付けて障がい者の方にも配慮する。障がい者の方の交通機関に配慮したまちになってほしい。
- ・ごみのないまちを目指す。無駄なゴミを出さない、ビニール袋をあまり使わない。
- ・ごみのないまちになってほしい。学校や家の周りのゴミ拾いをする。
- ・電車やバスの公共交通機関で他の人に席をゆずること。
- ・いろんな国の言葉を覚えて、外国から来た人に案内できるようになれば、外国の人が困らずに生活できる。
- ・ごみを減らすために、食べ残しをできるだけしないようにする。

◆2030年札幌オリンピック・パラリンピックが開催されるとして、大人になった皆さんは大会にどのように関わりたいですか？

- ・観客として選手やボランティアの人たちを応援したい。
- ・観客として外国人と一緒に喜びを分かち合いながら応援したい。
- ・実際に会場に行って、選手と同じ空間で一緒に喜びを感じたい。
- ・観客として選手の力になれるよう応援したい。
- ・みんながやってよかったと思えるような、札幌にプラスになるような大会にしたい。

【Cグループ】

◆今現在の札幌のまちに対する皆さんの「好き度」は10点満点中何点ですか？

- ・ 8点：雪で遊べて、スキーができるのが良いが、冬は滑るから学校に行くのが大変。
- ・ 8点：スキーとかで遊べるのは良いが、雪で事故が起こるのが心配。
- ・ 8点：雪が降るので小さい子も楽しめるが、都会のため緑が少なくリラックスができない。
- ・ 7点：雪があることでスキーとかで遊べる場所は良いが、渋滞になってしまう。
- ・ 7点：冬は雪で遊べるのが良い。でも駐輪場が少ないのが気になる。
- ・ 6点：スキー場がたくさんあって良いが、冬は雪ですぐ渋滞になってしまう。

◆2030年札幌オリンピック・パラリンピックを開催するとして、国内外から訪れる人たちが10点満点だと思ってくれる「札幌のまち」はどんなまちでしょうか？そのために明日から皆さんができること・したいことは何ですか？

- ・ 除雪が間に合っていない場所をみんなでサポートして雪かきする。
- ・ 排雪と除雪をより広い範囲でできるようにする。
- ・ 海外からの人たちが来ても自国の食べ物や本があると、過ごしやすいと思う。各国の言葉や食べ物を知れる場所があると良い。
- ・ 駐輪場がもっとたくさんあったらより良い。ゴミ拾いを積極的に行って、まちを綺麗にして「札幌って綺麗だな、また来たい」と思ってもらいたい。
- ・ 交通アクセスをより便利にして、渋滞が減ると良い。
- ・ 除雪作業をよりスムーズにしたり、環境に配慮した活動を、皆が積極的に行うようにする。

◆2030年札幌オリンピック・パラリンピックが開催されるとして、大人になった皆さんは大会にどのように関わりたいですか？

- ・ 観客として、会場やテレビ中継等で、家族と一緒に応援したい。
- ・ 観客として観戦して、日本の選手を見守っていききたい。
- ・ 実際に会場で応援してみたい。
- ・ ボランティアとして参加するのは難しいと感じるから、テレビで応援するようになりたい。

【Dグループ】

◆今現在の札幌のまちに対する皆さんの「好き度」は10点満点中何点ですか？

- ・9点：寒いところも好き。でも学校でいまだに掃除機ではなく、ほうきを使ったりしているのが、残念。
- ・7点：除雪してできた雪山によって起こる事故を防ぎたい。
- ・7点：学校の授業でもタブレット導入は始まったが、まだ授業で使う回数が少ない。設備はあるのに活用できていない。
- ・8点：冬に寒さで道が凍って、滑りやすくなっているのが危ないと思う。
- ・9点：コロナ対策がまだ万全にできていない部分が心配。
- ・6点：バリアフリーが整っていないから、未だに障がい者の方にとっては過ごしづらい場面が多々ありそう。雪による事故が絶えないことも心配。

◆2030年札幌オリンピック・パラリンピックを開催するとして、国内外から訪れる人たちが10点満点だと思ってくれる「札幌のまち」はどんなまちでしょうか？そのために明日から皆さんができること・したいことは何ですか？

- ・路地裏や細道等の目に付きづらい部分も除雪やゴミ掃除をしてきれいにしていく。そういうアイデアを学校の友達たちに伝える。
- ・地下鉄やJRなどの英語表記が少ないので、表記を増やしたり、ピクトグラムを使ったり、デジタル化を進めていく。
- ・「ごみがない、緑がある」といった環境が整っているとより良くなるので、ごみを拾うボランティアに参加したい。
- ・札幌のまちを歩く人がみんな笑顔だったら、素晴らしいまちになると思う。
- ・犯罪が少なくなったら、より安心できるまちになると思う。

◆2030年札幌オリンピック・パラリンピックが開催されるとして、大人になった皆さんは大会にどのように関わりたいですか？

- ・観客として観戦してみたいし、直接的でなくとも社会全体として支えていけるように自分なりの関わり方を探していきたい。
- ・ボランティアスタッフとして参加して、観客ではないからこそ見える選手のリアルな姿を見てみたいし、選手を支えたい。
- ・観客として会場に行って、現地で観てみたい。
- ・海外から来た方に道案内をして助けてみたい。

【Eグループ】

◆今現在の札幌のまちに対する皆さんの「好き度」は10点満点中何点ですか？

- ・ 10点：道路が碁盤の目で道が分かりやすいし、人が親切だから。
- ・ 10点：札幌は雪まつりなどの伝統的なイベントが多いから、外国人とかも集まりやすく国際交流ができるのが良い。
- ・ 10点：お店がたくさんあって行くところに困らないし、楽しくないところがないから。
- ・ 5点：以前住んでいた神奈川県と比べ電車の量が少なく、不便だと感じるから。
- ・ 10点：治安がいいし、都会と自然が良いバランスで調和しているのが良い。
- ・ 10点：優しく接してくれる人が多いから。

◆2030年札幌オリンピック・パラリンピックを開催するとして、国内外から訪れる人たちが10点満点だと思ってくれる「札幌のまち」はどんなまちでしょうか？そのために明日から皆さんができること・したいことは何ですか？

- ・ 外からでも分かりやすいトイレを作る。バリアフリー整備と除雪も一緒に進める。
- ・ 冬の時に雪で通れなくなる道がたくさんあるので、除雪をする。
あとは道を広く作って雪が積もっても通りやすくする。
- ・ 海外から来る雪に慣れていない人のために、屋根に積もった雪とか危険なところを除雪する。道が滑らないように砂を用意しておく。
- ・ 海外から来た人たちに対して、こちらから話しかけてあげる。
- ・ 海外から来る人で看板を読めない人が、読みやすいように外国語を表記する。
- ・ オリンピックやパラリンピックのマークのように、いろんな場所にマークを貼る。
- ・ 言葉が分からず困っている人がいたら、すすんで声を掛けてあげる。

◆2030年札幌オリンピック・パラリンピックが開催されるとして、大人になった皆さんは大会にどのように関わりたいですか？

- ・ 試合を実況する側として参加したい。
- ・ 英語を勉強して、海外から来る人たちと自由に話したい。
- ・ 選手たちが快適に生活できるような選手村をつくる仕事をしてみたい。
- ・ 海外から来る観客の人たちと会話をしながら、競技と一緒に応援したい。
- ・ ボランティアとして、選手たちの生活環境を整えることをしたい。

【Fグループ】

◆今現在の札幌のまちに対する皆さんの「好き度」は10点満点中何点ですか？

- ・7点：道路が滑りやすく、排雪が追い付いていないときがあるが、緑があり、買い物がしやすい。
- ・8点：バスや電車でどこでも行けるのが便利。
- ・6点：バスや電車等の利便性が高い一方で、人が密集していて温室効果ガスの排出が多く環境にやさしくない点が気になる。
- ・8点：雪が多く困ることはあるが、冬のスポーツを楽しめるのが良い。
- ・7点：冬は雪で遊べるのが良いが、登下校の時に滑って危ないのがこわい。

◆2030年札幌オリンピック・パラリンピックを開催するとして、国内外から訪れる人たちが10点満点だと思ってくれる「札幌のまち」はどんなまちでしょうか？そのために明日から皆さんができること・したいことは何ですか？

- ・ごみ拾いを積極的に行うことで、ごみが落ちてない綺麗なまちにする。
- ・いろんな言語を話せることで、海外から来る人たちと仲が深まりやすくなり、より札幌のまちを知ってもらえるようになる。
- ・宗教の違いやマナーは国ごとに違うので、その違いを受け入れることができるまちになると良いと思う。
- ・冬は雪で道が狭くなってしまうので、通りづらくて困っている人がいたら自分から道を譲ったりする。
- ・相手の権利や気持ちを考えて、尊重することを忘れないようにする。

◆2030年札幌オリンピック・パラリンピックが開催されるとして、大人になった皆さんは大会にどのように関わりたいですか？

- ・観客として参加し、オリンピック・パラリンピックを盛り上げていきたい。
- ・ボランティアとして参加しつつ、試合など大会の様子を生で見たい。
- ・ボランティアとして参加し、選手を間近で見たり、英語を学びたい。
- ・英語を勉強し、ボランティアとして参加し、海外の人に案内をしたい。
- ・大学生でも関われるボランティアに参加し、オリンピック・パラリンピックに関わってみたい。

(3) ワークショップでの意見 (1月29日)

【Aグループ】

◆今現在の札幌のまちに対する皆さんの「好き度」は10点満点中何点ですか？

- ・7点：冬の見どころはたくさんあるが、通年通して札幌市を代表とするものがあれば、より魅力的なまちになると思う。
- ・8点：友達と遊びに行こうと思った時に、どこのレジャー施設に行くか迷う。
- ・10点：冬のシーズンはスキー場が近いので、いつでもスキーやスノーボードができるのが良い。

◆2030年札幌オリンピック・パラリンピックを開催するとして、国内外から訪れる人たちが10点満点だと思ってくれる「札幌のまち」はどんなまちでしょうか？そのために明日から皆さんができること・したいことは何ですか？

- ・海外から来た観客の方々への小さな心遣いを心掛ける。困っていそうな海外の方がいたら自分から話しかけるなど。世界の各文化に札幌市が理解・対応していくことも必要。
- ・公共の施設には、英語や中国語の表記しかないから、他の言語も追加する。
世界の宗教や多様性を市民が受け入れていくことが必要。
- ・札幌市内の様々なところで、外国の方でもわかるような表記をする。
- ・世界中から人が集まるオリンピック・パラリンピックだからこそ、英語を使って選手や観客の人たちとコミュニケーションを取りながら、大会を一緒に盛り上げていきたい。

◆2030年札幌オリンピック・パラリンピックが開催されるとして、大人になった皆さんは大会にどのように関わりたいですか？

- ・英語や世界史等、これまでに学校で勉強したことをボランティアとして思う存分発揮しつつ、観客としても大会に感動や刺激を受け、成長の糧にしたい。
- ・オリンピック・パラリンピックほど世界中から人が集まる祭典はないからこそ、ボランティアや観客として参加し、世界の人々や文化と関わりたい。
- ・英語を勉強しボランティアとして関わりたい。出場する選手たちに札幌のまちの素晴らしさをPRしてもらえるような活動を行いたい。

【Bグループ】

◆今現在の札幌のまちに対する皆さんの「好き度」は10点満点中何点ですか？

- ・5点：夏は涼しく、冬はスキーをできるところが好きなポイント。あまり好きでないところは、路上喫煙が多いところや交通ルールを守らない人が東京に比べて多いところ。
- ・7点：好きなところはスポーツ施設が充実しているところや涼しいなどの環境面。足りないところは、交通の不便さやウィンタースポーツ施設などの値段設定の部分。
- ・9点：札幌は自然豊かで、街並みがきれいなところが良い。

◆2030年札幌オリンピック・パラリンピックを開催するとして、国内外から訪れる人たちが10点満点だと思ってくれる「札幌のまち」はどんなまちでしょうか？そのために明日から皆さんができること・したいことは何ですか？

- ・雪が降ると道が狭くなり、交通機関が遅れることが現在の懸念点。また、施設の老朽化が進んでいる。自分にできることは、除雪を積極的に行うこと。
- ・札幌のまちはスポーツが普及しているまちになって欲しい。現状はオリンピック・パラリンピックが来るのに、まちの人がスポーツをやっていない。雪に強く、ウィンタースポーツにより関心があるまちになってほしい。
- ・地元のスポーツ人口が増え、外国人から道を聞かれたときにも対応できるような人たちが多くなって欲しい。そのためにも学校の英語の時間で、より実践的に、観光案内などを取り入れてやっていきたい。

◆2030年札幌オリンピック・パラリンピックが開催されるとして、大人になった皆さんは大会にどのように関わりたいですか？

- ・観客とボランティアとして、自分の住んでいた町で開かれる大会に参加したいと思う。
- ・スキー競技の選手もしくは、選手を育成する側としてオリンピック・パラリンピックに関わりたい。
- ・マラソンを見た時にボランティアの方を見て印象的だったので、自分もボランティアとして参加してみたいと思った。

【Cグループ】

◆今現在の札幌のまちに対する皆さんの「好き度」は10点満点中何点ですか？

- ・7点：親切な人が多く、交通も便利なのが良い。冬は寒く、公園で遊びづらいとも思う。
- ・8点：交通網が充実していて、学校も通いやすい。加えて都市化されているのに、スキー場等でレジャーも楽しめるのが良い。除雪車の音がうるさいのが気になる。
- ・7点：季節の変わり目がはっきりしていて、四季を楽しめるのが良い。ただ、人が多いのでコロナの感染拡大が気になるところ。

◆2030年札幌オリンピック・パラリンピックを開催するとして、国内外から訪れる人たちが10点満点だと思ってくれる「札幌のまち」はどんなまちでしょうか？そのために明日から皆さんができること・したいことは何ですか？

- ・冬によく起る渋滞のトラブルがないように、雪の置き場所を工夫し、道路を広く造る。なぜ雪が置きっぱなしになっているのかを自分で調べてみたい。
- ・ごみを少なく、ポイ捨てを止めて、札幌をきれいなまちにする。
- ・英語以外の外国語表記をより充実させる。まずは自分で調べてみて、どんな表記があったら海外から来る人々が過ごしやすいかを考えてみる。

◆2030年札幌オリンピック・パラリンピックが開催されるとして、大人になった皆さんは大会にどのように関わりたいですか？

- ・観客として、会場で観てみたい。あとは自分が好きなスキーのボランティアとして参加してみたい。
- ・ボランティアとして、より近い距離で選手と関わってみたいし、オリンピックやパラリンピックを陰で支えている人たちの努力を見てみたい。
- ・観客として観に行きたいし、観客としてでは見れない選手の舞台裏もボランティアとして関わることで見てみたい。

【Dグループ】

◆今現在の札幌のまちに対する皆さんの「好き度」は10点満点中何点ですか？

- ・ 8点：札幌は発展していて、モノがすぐ手に入るところが良い。見れないテレビチャンネルがあるのが残念。
- ・ 9点：札幌は自然が豊かで過ごしやすいが、土地が広いのにテーマパークがないのが残念。

◆2030年札幌オリンピック・パラリンピックを開催するとして、国内外から訪れる人たちが10点満点だと思ってくれる「札幌のまち」はどんなまちでしょうか？そのために明日から皆さんができること・したいことは何ですか？

- ・ パラリンピックが行われるこのタイミングでバリアフリーなまちづくりを推進する。
- ・ 宗教上の問題に配慮した食品の種類を多くすることで、どの宗教の方でも過ごしやすい環境を作っていく。
- ・ 自分がオリンピックに興味を持って、周りに広めたい。
- ・ 世界中から集まる選手や観客の人々でも、美味しく食事ができるようにする。

◆2030年札幌オリンピック・パラリンピックが開催されるとして、大人になった皆さんは大会にどのように関わりたいですか？

- ・ 冬でも点字ブロックが見えなくならないように、除雪のボランティアをしたい。
- ・ 日頃から困っている人がいたら助けるという行動をすることで、障がいを持っている人たちに対しても、自然とサポートができるようになりたい。
- ・ ボランティアで参加しつつ、札幌でオリンピック・パラリンピックがやっていることを色んな人にアピールして盛り上げたい。

【Eグループ】

◆今現在の札幌のまちに対する皆さんの「好き度」は10点満点中何点ですか？

- ・6点：冬が特に寒いのと大きなイベント開催は本州が主なので、その点がマイナス。
- ・6点：車椅子で移動するときにJRとバスが乗りにくい。地下鉄は柔軟に対応してくれるので、比較的乗りやすい。
- ・7点：寒さが厳しい。暮らしていて買い物などは便利。またご飯はおいしいので、そこも好き。

◆2030年札幌オリンピック・パラリンピックを開催するとして、国内外から訪れる人たちが10点満点だと思ってくれる「札幌のまち」はどんなまちでしょうか？そのために明日から皆さんができること・したいことは何ですか？

- ・海外から来る人のために、公共 Wifi の設置数増加や電波を強化するということが必要。
- ・ごみ拾いや町の緑化などを進めて、さらに一歩進んだ観光地になれるように努力する。まちの景観の維持と共に平和安全は守られていくべき。
- ・案内表示板等の多言語化を進める。
- ・冬の季節でも、車いすユーザーが動ける等、すべての人にとって住みよい街を目指していくことが重要。
- ・市民が困っていることを行政の担当者にしっかり伝えることのできる分かりやすい仕組みを作ることができたら良い。

◆2030年札幌オリンピック・パラリンピックが開催されるとして、大人になった皆さんは大会にどのように関わりたいですか？

- ・実際にはできなかったが、東京五輪のボランティアもしてみたかった。札幌五輪では、観客としても楽しみつつ、英語を学んで、ボランティアで選手と直接コミュニケーションを取ってみたい。
- ・自分自身も車椅子を使っているので、バリアフリーの施設を紹介して、ハンディキャップを持つ人たちのサポートがしたい。
- ・観客やボランティア等どんな形であっても、せっかく札幌でやるのであれば、オリンピック・パラリンピックを盛り上げたいし、支えていきたいと思う。

【F グループ】

◆今現在の札幌のまちに対する皆さんの「好き度」は10点満点中何点ですか？

- ・ 8点：札幌は交通の利便性が良い一方で、冬は積雪が多く除雪が大変。
- ・ 8点：地下歩行空間で天候に関係なくアクセスできるのが便利で良い。
- ・ 8点：雪が多いのが嫌だが、周辺に自然があるのが良い。

◆2030年札幌オリンピック・パラリンピックを開催するとして、国内外から訪れる人たちが10点満点だと思ってくれる「札幌のまち」はどんなまちでしょうか？そのために明日から皆さんができること・したいことは何ですか？

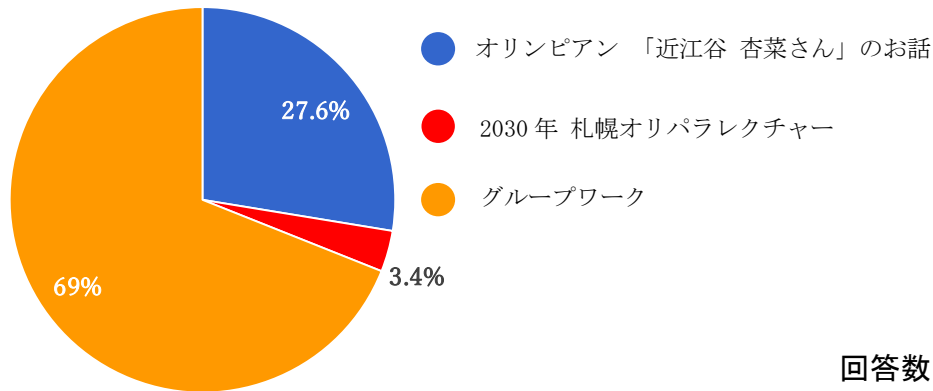
- ・ 冬は車椅子の移動が大変だし、点字ブロックも見えないから工夫をする必要があると思う。除雪を積極的に行い、違う仕組みを作るなど。
- ・ 小さい子どもたちにもスポーツの面白さを伝えてあげたい。
- ・ おもてなしがあふれるまちにすることで、札幌を訪れた人に「札幌はいいまちだな」と思ってもらえるようにしたい。
- ・ 札幌の歴史や伝統を伝えることで、札幌のことをもっと知ってもらいたい。まずは自分たちが札幌のまちを知ることが大事。

◆2030年札幌オリンピック・パラリンピックが開催されるとして、大人になった皆さんは大会にどのように関わりたいですか？

- ・ 自分が車椅子ユーザーだからこそ伝えられる、パラリンピック競技の面白さや車椅子ユーザーの視点を周りの人に伝えていきたい。
- ・ ボランティアとして大会に携わることで、選手や観客の人たちで困っている人を助けてあげたい。
- ・ 観客として、オリンピックを盛り上げていくようにしたい。

(4) アンケート結果 (1月26日)

問1. 今日のイベントで楽しかったプログラムはどれですか？
1番楽しかったもの1つを選んでください。



回答数:29件

問2. 問1で選んだプログラムのどんなところが楽しかったですか？

【オリンピック 「近江谷 杏菜さん」のお話】

- ・自分の知らないことが知れたから。
- ・試合をしてる時のお話。
- ・オリンピックに、オリンピックのことを聞けたところ。
- ・オリンピックのことがたくさん知れたこと。
- ・オリンピックから、実際のオリンピック会場の話など、いろんな話を聞けたところです。
- ・選手の考えがわかりやすく書かれているところがよかったです
- ・自分も、カーリングや、クロスカントリー、スキーをやったことがあるのですが、やっぱり支えてくれる人がいるからできる、楽しいということを改めて実感できました。
- ・オリンピックについて色々な見方ができたから。

【グループワーク】

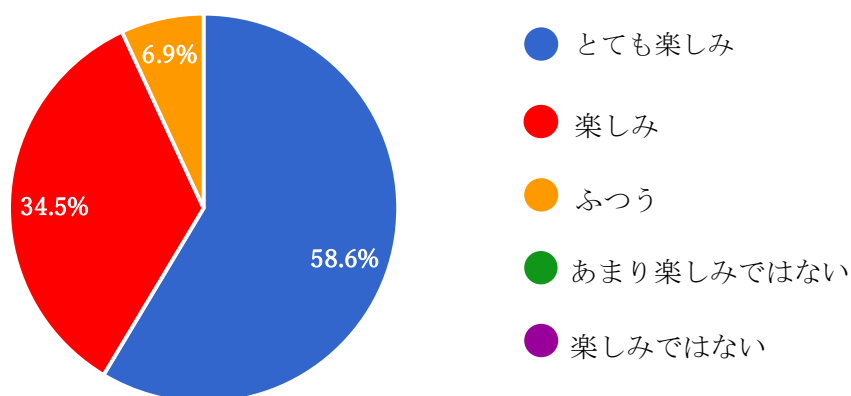
- ・みんなでより良い街にするために話し合ったこと。
- ・他の人の意見を聞くことができいろいろな人と話せたこと。
- ・みんなと交流することが一番良かった。
- ・みんなで一緒に話して意見をいうのが楽しかったです。
- ・いろいろな人の意見が聞けたこと。
- ・札幌市の事を沢山考えることができたところです。
- ・みんなでオリンピック・パラリンピックのことを話し合ったところです。
- ・みんなと交流するところ。
- ・数人のグループだと一人一人の意見がよく聞けたので、納得したり新しい発見があったりしました。あの取り組みはすごく良いと思います！！
- ・皆で将来の札幌について話し合ったこと。

- ・交流することが一番良かった。
- ・皆で、一人一人の気持ちを話せたのが楽しかったです！
- ・色々な人との交流をしたり，学校での発表会みたいだったのですごく楽しかったです。
- ・みんなでオリンピック・パラリンピックのことを話し合えたことが楽しかったです。
- ・皆さんとの交流。
- ・グループワークで考える時が楽しかったです。
- ・色々な価値観/考え方があって、自分には考えられないようなことを交流できたので、有意義な時間でした。
- ・ファシリさんがいたので詰まることがなく良かったです。
- ・みんなとお話出来たこと。
- ・札幌のより良くしたらいい点をグループで話し合えたこと。

【2030年 札幌オリンピック・パラリンピック大会レクチャー】

- ・知らなかった札幌のことを知れてうれしかったし、楽しかった。

問3. 今日のイベントに参加して、札幌での冬季オリンピック・パラリンピックについてどう思いましたか？1つ選んでください。



回答数:29件

問4. 問3についてどうしてそう思ったのかを選んでください。(複数回答可)

- ・海外の人と交流する機会が増えるから/22件 (75.9%)
- ・札幌にたくさんの人に来てにぎやかになるから/19件 (65.5%)
- ・間近で一流選手の競技をみることができるから/18件 (62.1%)
- ・自分のまちで選手として出てみたいから/6件 (20.7%)
- ・まちのなかが混雑しそうで心配だから/3件 (10.3%)
- ・お金がたくさんかかりそうだから/1件 (3.4%)
- ・ウィンタースポーツに興味がないから/0件 (0%)

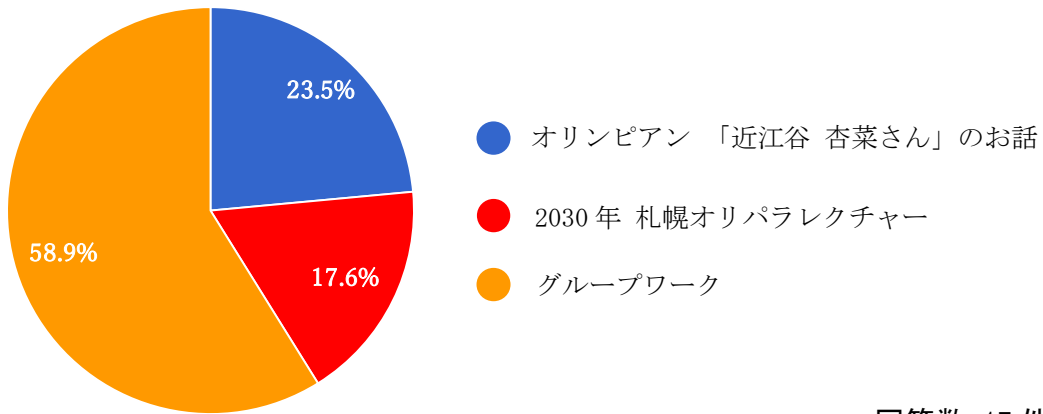
問5. 今日のイベントの感想を自由に書いてください。

- ・とても楽しかったので、またやる機会があったら皆で話し合いたいです！
- ・五輪に対しての関心が高まりました。
- ・小さなグループに分けていただいたので話しやすかったです。
- ・近江谷杏菜さんのお話が分かりやすかったです。
- ・またこのような機会があれば参加したいです！！
- ・グループワークの時間をもう少しとって欲しかったです。（近江谷さんのスライドは、自分の実体験もお話いただいたので有意義な時間でしたが、もう一つのスライドの説明は書かれていることをそのまま話している感じだったので、配られていた物を見ていた人にとっては必要なものではないかと思います。）
- ・グループワークの時、意見に対しての意見を言いたいな…という時、少し話を繋ぎずらい感じがあったと思います。（チャットもしづらいというか、交流がしづらかった）
- ・全体で整理するもの（紙 Googlejamboard Google スプレッドシートなど）があると話しやすかったと思います。
- ・このアンケートが『長文』を選択されていて、改行ができるモードだったのが良かったです。
- ・2030 オリンピック、パラリンピックのために何ができるかが分かり、たくさんの意見が聞けてたのしかったです。
- ・色々なことができてよかったです。また、参加したいと思いました。
- ・少し時間が長かったけれど楽しかったです。
- ・グループでいろいろな案をだせて、楽しかった。
- ・今回思った以上に、楽しかったので、次があったらまた参加したいし、次からは、友達や、兄弟や、家族とも交流しながら活動したいと思いました。2030年にある札幌市でやるオリンピックでは、もうコロナも治っていると思うので、絶対に行きたいって思いました。
- ・全員初対面でしたが選手のお話を聞いたり、選手の身になって考えるきっかけにもなりました。大人になったら、いいえ、今から。私にできることを考え、少しでも行動に移せばいいなと思っています。貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。とても楽しかったので、違うテーマでまたやってみたいです。
- ・今年で1番楽しかったです。
- ・今日は、オリンピックからのお話や、市長さんからの将来のオリンピックのお話をきけたので、SDGs や、オリンピックについて興味を持ちました！ありがとうございました。また参加したいです！
- ・今までこんなに真剣に考えたことなかったので面白かったです。あと札幌市長と1流アスリートと会えて嬉しかったです。

- ・参加してとても良かったこれを生かして今後考えたいと思った。
- ・面白いし楽しいことがあったことが一番楽しかった。
- ・オリンピックやパラリンピックなど、国際的な話し合いができたから。
札幌市で 2030 年のオリンピックやパラリンピックがあったらいいなと思いました。
- ・みんなの考えを聞いて私もそうかも！と新しいことに気づけた。
- ・近江谷杏菜さん、今日はありがとうございます！
- ・時間が長くて途中から飽きてきた。
- ・色々な人の話が聞けて面白かったです。
- ・たくさんの方の意見を聞けて楽しかった。
- ・人との交流や、関わってくるかもしれないオリンピック、パラリンピックについて話せて楽しかった。
- ・タイムスケジュールをもう少ししっかり考えてほしかった。
- ・秋元市長や、近江谷杏菜選手と関わる機会ができて嬉しかった！
- ・近江谷杏菜選手と話し合えたし、グループワークでオリンピック・パラリンピックのことを話し合いをできたことです。もしまたこういうイベントがあったら参加したいです。
- ・参加して色々なことを考えられたので良かったです。
- ・オリンピックが楽しみです！
- ・選手、市長からの話も良かったけれど、グループで交流する所が一番楽しかったです。
- ・オリンピックに出た近江谷 杏菜さんのお話や、グループワークが、とても面白かったし、楽しかったです。また機会がありましたら参加したいと思います。
- ・いろいろな話を聞けて良かったです。

(5) アンケート結果 (1月29日)

問1. 今日のイベントで楽しかったプログラムはどれですか？
1番楽しかったもの1つを選んでください。



回答数: 17件

問2. 問1で選んだプログラムのどんなところが楽しかったですか？

【オリンピック 「近江谷 杏菜さん」のお話】

- ・カーリング選手と話せて楽しかったです。
- ・近江谷杏菜さんのエピソードなどを聞いて、楽しかったです。
- ・今実際に活動してる選手の話の聞けることが嬉しかったです。
- ・オリンピックの目線でオリンピックについて話が聞いて興味深かった。
通常は、一般市民（自分達）の目線でしか大会について捉えられていないので、貴重だった。

【グループワーク】

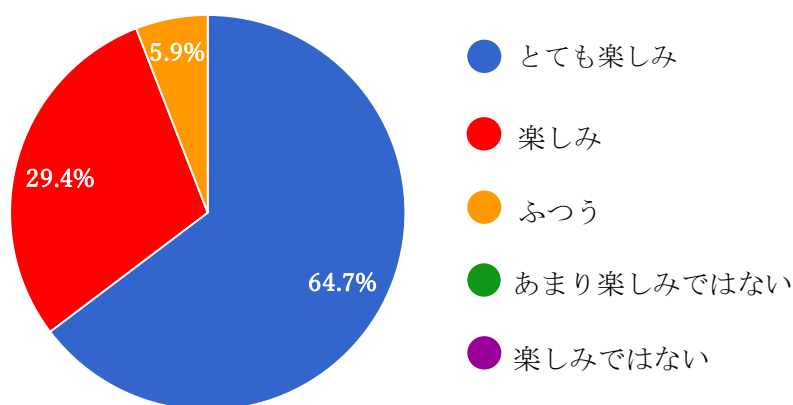
- ・他の参加者の皆様の意見を聞くことが楽しかったです。
- ・自分自身のオリンピックに対する意識や考え方、興味を再確認する機会となり、札幌市民の一員として自分に出来ることを発見する事が出来たから。
- ・他の人の意見が面白かった。特に2つ目のワークショップが観光系を志望している私にとって多角的な意見が興味深かった。
- ・札幌に対する意見をたくさん聞くことができたから。
- ・いろいろな人の話を聞いたこと。
- ・みんなで意見を交流出来たこと。
- ・初対面の方との意見交流。
- ・色々な意見を聞いた。
- ・自分以外の同年代の中高生の意見や、市長からのお話を聞くことができて新しい視点の発見があった。札幌がより良い都市になるためにはどのようなことが必要であるかについて、改めて考えるきっかけとなったこと。

・知らない人と話し合いをしたところ。

【2030年 札幌オリンピック・パラリンピック大会レクチャー】

- ・沢山のことが知れたからです。
- ・冬季オリンピック、パラリンピックが札幌で開催されるとどのように発展していくか、わかったから。
- ・8年後といえ、あつという間の8年だと思うので、楽しみです。

問3. 今日のイベントに参加して、札幌での冬季オリンピック・パラリンピックについてどう思いましたか？1つ選んでください。



回答数:17件

問4. 問3についてどうしてそう思ったのかを選んでください。(複数回答可)

- ・間近で一流選手の競技をみることができるから/16件 (94.1%)
- ・海外の人と交流する機会が増えるから/9件 (52.9%)
- ・札幌にたくさんの人に来てにぎやかになるから/9件 (52.9%)
- ・まちなかが混雑しそうで心配だから/3件 (17.6%)
- ・自分のまちで選手として出てみたいから/1件 (5.9%)
- ・お金がたくさんかかりそうだから/1件 (5.9%)
- ・ウィンタースポーツに興味がないから/0件 (0%)

問5. 今日のイベントの感想を自由に書いてください。

- ・色々な意見を聞いた。
- ・札幌について今までよりもさらに知ることができ、充実した会になりました。本日はありがとうございました。
- ・オリンピック、市長から間近でお話を聞ける機会はなかなかないのでとても有意義な時間でした。ありがとうございました。
- ・近江谷 杏菜さんとしゃべれて楽しかった。
- ・いろんな参加者からの意見全てが「札幌を良くしていく」ために必要なことだなと思った。札幌には「ウィンタースポーツ」という強みがある。観光コンサルタント

を目指すものとして、今日学んだことを将来に生かしていきたい。

- これをきっかけに、札幌市がもっと住みやすい街になってほしいと思います。とくに、信号無視がなくなってほしいです。
- 蔓延防止や入国制限をなくせばもっと人が入ってくるのになあと思いました。コロナと共存するべきだと思う。
- いろんな意見が聞けて良かったです。
- こういうものに初めて参加したのですが、楽しかったです。ありがとうございました。
- 自分の意見を発表するのは、少し緊張したし、何を言えばいいか迷うこともあったけど、みんなで意見を聞いたり、話し合うのは、楽しかったです。札幌をいい街にするには、一人ひとりの協力が必要だと思うので、少しでも協力できるように頑張りたいです。
- 自分の意見を言うのは難しかったけど、参加して良かったです。
- 今回のイベントを通して、札幌で冬季オリンピックを開催することの魅力をより一層感じることができました。8年後に実際に開催される頃には私は社会に出ている頃になりますが、だからこそこれからも札幌市で生きる市民としてボランティアという形で地元・札幌の素晴らしさを伝えるお手伝いがしたいと感じました。市長のお話や近江谷さんのお話も聞くことができ、非常に学びの多い時間でした。今日はありがとうございました。
- 話す場面もあって、緊張して上手く話せなかったけど、2030年の開催について普段考えることがなかったけど、ワークショップを通して考える事ができていい経験になったと思う。
- 冬季オリンピック、パラリンピックが札幌で開催されるといいなと思った選手などの色々な視点から見る事ができた。
- さまざまな意見を聞くことが出来ました。
- 秋本市長に一つだけお願いがあります。
障害を持っていない人が「この施設はバリアフリーだ」と思っていた施設が、障害を持っている人が、「バリアフリーではない」と思うことはよくあります。また、バリアフリーは進んでいても、「心のバリアフリー化」(国籍や障害、性別や宗教など)により、外出しにくいことがあります。そのようなことを減らすための工夫等をお願いしたいと思います。札幌から日本、そして全世界の人々が過ごしやすい街になればと思います。今日はありがとうございました。
- 今回のイベントで、漠然としていた札幌五輪の招致について知れて、とてもうれしかったですありがとうございました。
- このイベントで、札幌五輪について詳しく知れて、また、当事者意識を持って良かった。グループワークを通して、モノのグローバル化・バリアフリー化についての

発言が多かった。それと並行して、それに加えて人の変化（グローバル化・バリアフリー化・スポーツへの意識）も促すべきだと思った。後者に関しては、確実に進められるものではないので、8年前の今から進めた方がいいと思った。（近江谷選手のエピソード、グループワークの意見が参考になった。）自分も札幌市民として、素晴らしい現地の人間になれるようにしたいと思った。

また、秋元市長とライブで始めてあったので貴重な機会でした。今はコロナ禍と言われていて、教育・スポーツ・文化が制限されていますが、医療だけでなく、それらもまた人の生活・命を支えているので、一刻も早い復興（？）を望むのみです。パンデミックに怯えるだけでなく、未来を壊さないよう教育活動・文化活動の再開優先等の視点も市政に加えていただきたいと思います。今回は五輪招致をしていただきありがとうございました。

- ・今回のイベントで、漠然としていた札幌五輪の招致について知れて、とてもうれしかったです。ありがとうございました。
- ・ワークショップ楽しかったです。またこのような機会があればと思います、滅多にみないので、いい経験になりました。是非今後もこのようなイベントを実施してほしいです。ありがとうございました。

3 市民ワークショップ（Zoomによるオンライン形式）

(1) プログラム

- ① 開会
- ② ゲストオリンピックによる講話
第1回目：船山 弓枝さん
第2回目：伊藤 みきさん
- ③ 大会概要レクチャー
- ④ 質問タイム
- ⑤ ワークショップ
- ⑥ 閉会

◇ 第3回目の中止

市民ワークショップは、当初第3回目を現地開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止を決定致しました。既にお申込みいただいていた応募者の方々には、「振替意向確認票」をお送りし、参加可能な方は第1回目もしくは第2回目に振り替えていただきました。

◇ 船山 弓枝さんによる講話

冬季オリンピックソルトレイクシティ大会、トリノ大会、ソチ大会と過去3度の冬季オリンピック出場経験があり、女子カーリングチーム「フォルティウス」に所属している船山 弓枝さんから、「オリンピックだけが持つ魅力」というテーマで、カーリング競技との出会いや冬季オリンピックに出場したことで分かったオリンピックならではの魅力について、お話しいただきました。

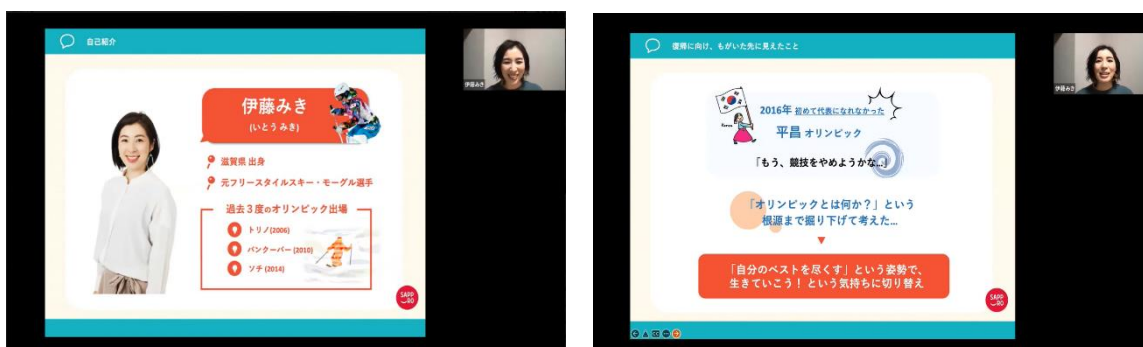
【「船山 弓枝さんによる講話」資料抜粋】



◇ 伊藤 みきさんによる講話

冬季オリンピックトリノ大会、バンクーバー大会、ソチ大会に出場経験のあるフリースタイルスキー・モーグル元選手の伊藤 みきさんから「伊藤みきとオリンピック」と題して、オリンピック選手を目指したきっかけや挫折から学んだこと、オリンピックを通して何が札幌にもたらされていくのかを、ご自身の経験からお話いただきました。

【「伊藤 みきさんによる講話」資料抜粋】

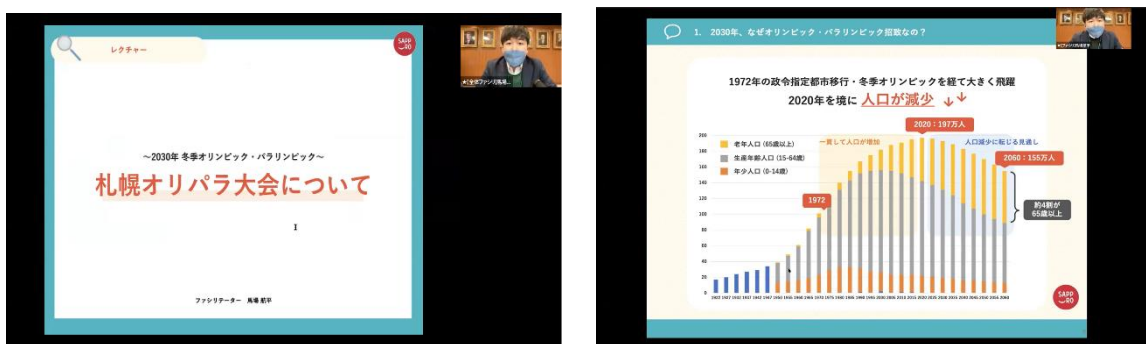


◇ 大会概要レクチャー

札幌市が公表している「2030 北海道・札幌オリンピック・パラリンピック冬季競技大会概要(案)」を基に作成した資料を使いながら、統括ファシリテーターが招致の意義や大会ビジョン、会場配置計画、財政計画等について説明を行いました。

その後、ゲストオリンピックや秋元市長への質問を伺った後に、グループに分かれてのワークショップの進め方や話し合うテーマについて、統括ファシリテーターから説明を行いました。

【「統括ファシリテーターによる講話」資料抜粋】



◇ワークショップ

ワークショップは、以下の2つのテーマについて、各グループ（3名～5名程度）で意見交換を行いました。

【テーマ1】

オリンピック・パラリンピックを開催する場合の、利点(期待すること)や課題(懸念すること)は何ですか。

統括ファシリテーターからの大会概要レクチャーを受けて、2030年冬季オリンピック・パラリンピックを開催した場合の「利点（期待すること）」と「課題（懸念すること）」について、それぞれご意見をいただきました。

【テーマ2】

本日の大会計画の説明を聞いたうえで、オリンピック・パラリンピックを開催した場合には、どのようなレガシー(大会によってもたらされるもの)が札幌のまちに残ってほしいですか。

2030年冬季オリンピック・パラリンピックを開催した場合に「どのようなレガシー(大会によってもたらされるもの)が札幌のまちに残ってほしいのか」について、【テーマ1】で話した内容も踏まえながら、多くのご意見をいただきました。

(2) ワークショップでの意見 (2月9日)

【Aグループ】

◆オリンピック・パラリンピックを開催する場合の、 利点(期待すること)や課題(懸念すること)は何ですか。

- ・高齢化や人口減に対する懸念が強い。札幌を魅力的なまちにするということは、みんなが考えているところ。大会の有無に関わらず進めていかななくてはならないことだと思うが、例えば、シニア層の就業割合が全国でも低いと聞いているので、そういった方へ仕事やボランティアなどを提供できる土台づくりのきっかけになるのではないかと期待している。
- ・課題をあげると数限りなく出てくる。あと9年間ある中でこの札幌の都市を魅力的にするためにオリンピック・パラリンピックをどうやって活用していくか。まずは9年後を目指してどういうまちにしていきたいのか、今日からその組織づくりをきちんと考えながら進めていくことが重要と考えている。
- ・業務で東京オリンピック・パラリンピックを経験した。オリンピックのもつパワーは非常に強く感じたので、札幌が一体になるために活用できるものだと思っている。「どういったまちにするのか」ということはまだまだ議論が必要だが、市民の一体感を醸成するために有効的なイベントだと感じている。
- ・スポーツの祭典として、非常に大きなものなので面白そうだと感じている。目標があるということは、決して無駄ではないと思う。もし、開催が出来れば一助の力になりたい。
- ・私は道産子なので、北海道・札幌が好きで、このまちが好きだから住んでいる。せっかく1972年に札幌大会が開催されて、1998年に長野大会が開催されて、北海道は雪が降り、雪国に誇りを持って生活をしていくという意識付けみたいなものが、1972年以降何もこっていない。9年後を目指して本当にやっていくのであれば、9年後にのこるレガシーではなくて、明日から9年後を目指して進めていくレガシーもあっていいと思うし、2030年以降にのこるレガシーもあっていいと思う。もう少し、「雪のまち札幌」にプライドを持つ、シティプライドみたいなものをつくり上げていければいいと思っている。やるならやると決めた中で、みんなでそこに向かって進んでいく。ただ、それには「課題を乗り越えてでも進んでいく」というような道民の意識付けができればいいと思う。

◆本日の大会計画の説明を聞いたうえで、オリンピック・パラリンピックを開催した場合には、どのようなレガシー(大会によってもたらされるもの)が札幌のまちに残ってほしいですか。

- ・ハードとしてのこるレガシーではなくて、心にのこるレガシーを市民それぞれが9年10年後に持ち合わせられるようなもの。9年後に世界からさまざまな人を迎える札幌にしていこう、という市民の気持ちをどう醸成するのか。そして、9年先それがどうつながっていくのか、市民一人ひとりが今回のオリンピック・パラリンピックで、札幌のまちをより良くしていこうという気持ちを持つことが必要。行政が車いすの方のために、すべての道にロードヒーティングを導入するのは不可能だが、そういう方たちが来た時に自分たちに何ができるのだろうか、と考えることができるような、ひとりひとりの心の中にレガシーが蓄積されていくといいと思う。
- ・当時の事やそこでもらった感動を思い出せるような大会をつくる。心にのこるような大会にしたいという思いがある。世界の人が札幌に憧れてきてくれるような都市になってくれればいいと思う。
- ・先ほどの虹と雪のバラードの話をきいて、スキージャンプの日の丸飛行隊等のことを思い出した。そのような無形の幸せな感じ、楽しかった感じ、など、そんな大会をつくることができればいいと考えている。
- ・形だけでなく、心にのこるものにするのが大事だと思う。2030年は北海道新幹線も札幌までくる年。せっかく大会で札幌まで来ていただくので大会後も、来ていただけるまちでいてほしいなと思う。ホテルもコロナで非常に厳しい状況だと思うので、そういった方にも未来を向いて勝負をしていけるようなまちづくりになっていって欲しい。
- ・ハードを固めるのではなくて、札幌に住んでいる人たちが「雪っていいよね」、「楽しいよね」、このまちって「素敵だよ」と思えるまちにできればいいと思う。
- ・誰にとってという観点でかわってくると思うが、観光客や高齢の方にとっては、使いやすいデジタルソリューションやコンパクトシティが必要だと思うし、住んでいる方にとっては、適度な自然環境が必要になってくる。
- ・冬の札幌は大雪で健常者の人にもこれだけつらい思いをさせるのに、障がいのある方がどういう風に過ごしているのかを考えると、みんなが楽しく世界中から集まっていたかどうかというのは並大抵なことではできないと思う。そういう気持ちをどうやって醸成していくのかはすごく難しいと感じた。
- ・前回のオリンピックのときにできたまちがそのまま年を重ねて、少し劣化しているようなエリアもある。これは札幌の人口減少等のいろいろな問題があると思うが、市民が普段使うインフラ関係は最低限必要な経費を使って予算をつけていく等もしていく必要があると思っています。

【Bグループ】

◆オリンピック・パラリンピックを開催する場合の、利点(期待すること)や課題(懸念すること)は何ですか。

- ・経済効果と人口減少の歯止めをかけるきっかけとなってほしい
- ・老朽化したインフラを整備するきっかけとなってほしい。
- ・訪れた人々への接し方など、ソフト面での変化に期待する。
- ・様々な課題に対する解決策がオリンピック・パラリンピックである必要性に疑問がある。
- ・課題しかない。懸念しかないと思っている。そもそもこの大会概要案は嘘が多い。ごまかし、数字の遊びのようなどころがあって、札幌市が正直、誠実に広報をしているとは思えない。招致前提で、どうやって反対が出ないか、といったことのつじつま合わせをしている。それがこの大会概要案で分かる。例えば、税金を使わないというのは、招致活動だけで年間4～5億円1年で使っている。これからも使っていくでしょうから、10年経ったら50億円になります。あとは、新設ゼロというのも非常に怪しく、長野スパイラルはどこを整備するのかという、おそらく使えなくて困るのは札幌なので、札幌市が中心になって整備することになる。長野スパイラルは現在使われておらず、維持費だけで年間2.2億円。長野がそれはもうやめますとって、放置されている。それをわざわざ改修と書いていますが、かなりの金額をかけて改修をする。

◆本日の大会計画の説明を聞いたうえで、オリンピック・パラリンピックを開催した場合には、どのようなレガシー(大会によってもたらされるもの)が札幌のまちに残ってほしいですか。

- ・東京オリンピック・パラリンピックのボランティアでハンディキャップのある方々と触れ合い、どのように接すべきかという機会があった。それをボランティアの人が受けて大会終了後に地域に戻ると、その人たちはそうした配慮を持って接することができるようにソフト面、人の接し方の面で変化が起こるのではないかと。それを8年後行うのであればもっとブラッシュアップして、そういう人を増やしていけるのではないかと考えている。
- ・東京大会でパラリンピックはすごいなと率直に感じた。さらに言うと、リスペクトした。人それぞれの個性を尊重するとか、アスリートはもちろんだが我々の日常生活に落とし込んだ中で、知っている人も知らない人もそれぞれ個性を持っていて活かしながら生きていけるような社会になっていくといい。そういう社会を目指すとして特にパラリンピックに向けていろいろな取組が必要になると思うが、そこは世界に先駆けている社会をつくっていく、というようなことが札幌で出来たらいいと思っています。

- ・老朽化したインフラが整備されるのがいいと思う。私自身もボランティアの研修の中で手話を覚えたら、使いたくなるし、ものの見方が若干変わる。いままで全然気づかなかったバリアフリーに関することや、普段気付かないいろいろなことに気付いて、やさしくなった自分がいた。北海道の人がみんなそうになると幸せだと思います。札幌市にあれしろこれしろといっても、税金がなければできない。税金は納税者が減れば減る一方なので、人を呼び込まないことにはインフラもできないし、オリンピックはおろか、イベントをするお金も無くなってしまうと、ソフト面もおろそかになってしまう。繰り返しになるが、きっかけがあることでみんながやさしくなって、札幌が好きになって、札幌に来る人が増えたら、みんな幸せだと思います。
- ・この資料にあるレガシー自体は素晴らしいと思う。ただこれらは五輪によって成し遂げられるものなのか。五輪じゃないとできないのか。例えば、健康寿命の延伸を見ても、1972札幌大会のときに札幌市民は運動するようになったのか。寿命が伸びたのか、と考えると残念ながらそうではない。札幌市の健康寿命は政令市の中では平均より下。優位な情報がない中で、なぜオリンピックをただけで寿命が延びるという論理が展開できるのかと思った。健康寿命の延伸については札幌市は既に取り組んでいる。副市長を筆頭にそういった会議体を立ち上げてPRしているのだから、それを頑張ればいいのではないか。なぜオリンピックに絡めるのか、というのがすべてにおいて思うところ。バリアフリーの普及とあるが、競技場やその周辺の整備だけ進んでいくのではないか。そういったヘルプが必要な人が競技場だけにいるわけではない。450億円というのをどう使うのか、なぜ体育館ばかりバリアフリーが進むのかという話になる。
- ・オリンピック・パラリンピックを題材にした公式映画が楽しみである。
- ・札幌ドームを使う計画になっているが、コンサドーレなど他競技や他団体がその間活動する場所の確保や協力を仰げるような体制づくりができているのかが疑問。

【Cグループ】

◆オリンピック・パラリンピックを開催する場合の、 利点(期待すること)や課題(懸念すること)は何ですか。

- ・自国開催ということで、実際に見て、携わることによる体験の価値が幸福感に繋がっていくと思う。いまの時代、ものを一緒に作り上げていくということが重要視されているので、8年間という長いプロセスをかけて一緒に経験していくというのがレガシーになる。懸念はお金の話になる。大会にかかる費用に関しては、市民に対して経済効果の部分も含めていかに丁寧に説明するのが重要。
- ・夢を実現するということは大変いいこと。ぜひ、前向きに取り組んでいくべきだと思っている。まちづくりにしても、地域づくりにしても、人間づくりにしても、すべて前に前に行く方向にある。わたしたちは目標を持って暮らすわけですから、8年後にオリパラがあるんだということを目指す、私たち全員が向くべきだと思います。課題は、子どもたちにそういった機会を与えて、意欲が出るようなものを8年間でつくるということ。例えば、スキー学習などの学校教育、こういうものを教育にどんどん取り入れていくことで、夢がひらかれていく。
- ・実際に見ることで、今まで思っていたことが、劇的に変わる瞬間はたくさんあった。例えば、ジャンプを見に行ったり、カーリングを見に行ったりして、肌で体験する機会がすごく新鮮で、そういうものをオリンピックという4年に一回の大会を自国開催で見ることができる、ということが最大の利点だと思っている。生きているうちに生でオリンピックを見ることができる機会は本当に1回か2回しかないということで、そういうチャンスに期待できる。課題は、民意が上がるのかということ。おそらくコストの部分で民意が上がっていかないのだと思う。財源の問題はオリンピック以外でも考えないといけない税金の使い道はたくさんあると思っている。なので、そこにあまりメスが当たらずに、オリンピックの開催経費だけに焦点が当たるとするのは、本質ではないと感じている。利点の記憶が一生のこる、それが日本国民だけではなくて、来てくれた外国人、テレビを見た方に記憶としてのこるという、無形の財産の方がすごく大きいと思っている。コストの部分については、行政の方でも計画をしっかりと出して北海道の皆さんが納得できるような説明をしていただく事は必要だと思うが、お金がすべてではないと思っている。
- ・札幌で集中的に開催することで、札幌の魅力は向上すると思うが、その他の北海道の地域が置いてきぼりになってしまうのではないかと。札幌もこれから人口減少になるが、他の地域はもっと急速に人口減少が進んでいる。その原因は札幌に集中していくこと、そういう一極集中の弊害が出てくると思っている。
- ・雪に包まれている自然環境の中でそれを利用して、ウィンタースポーツを楽しむという文化は非常に大切に引き継いでいくべきだと思っている。それを札幌、北海道で実施し

ていくということは大変意義のあることだと思う。環境も含めて、いろいろな先端技術の導入というのも検討されるので、それを契機に札幌も北海道全体も含めて、オリパラの時だけではなくて、その後にのこる先端的な環境にも配慮した技術やまちづくりがのこっていけばいいと思う。北海道は広いので、他の地域との連携などの配慮は必要だと思う。

- これだけのものは開催する意義は十分あると思うし、開催した方が良いと思う。せっかく開催するなら、ちゃんと開催しようよとっていて、これまでのアジア圏の東京、札幌、長野、ソウル、北京、平昌はモノをつくって、国費を発揚しようというものである気がする。それはこれからの時代に必要ないと思うし、実際に住んでいる人たちが本当に満足できるものをつくらなければならない。なぜできないかという決定権がないから。組織委員会にもない。札幌市にもない。開催地にもない。そこに住む住民にもない。それを解決しないと結局IOCの言いなりとか、特定の人の個人的見解、元政治家とかの言いなりで決まってしまう。結果的に誰も満足できないものになってしまう。札幌市としては、IOCや組織委員会にこういう条件でなければできないと言えるような仕組みをつくって開催する。このままいくと、IOCのいいなりになってしまうのではないかという気がする。

◆本日の大会計画の説明を聞いたうえで、オリンピック・パラリンピックを開催した場合には、どのようなレガシー(大会によってもたらされるもの)が札幌のまちに残ってほしいですか。

- 施設や設備などのハード面だけでなく、子どもたちの記憶にのこり、夢を持って育つことに繋がるようなオリンピック・パラリンピックになってほしい。
- 冬季スポーツの素晴らしさや魅力と併せて、北海道や札幌の魅力を我々日本人が再発見できるような大会になってほしい。こんなにアクセスのいいところでウィンタースポーツを体験できるということを外国人はもとより、日本人が再発見できるような大会になれば、それがレガシーとして残る。
- オリンピック・パラリンピックを機に、札幌を世界に発信できる機会なので、札幌が発展していく良い機会だと思う。バリアフリー設備や施設が整備されることで、福祉のまちとしての成果をのこし、人と人とのつながりで、思いやりの心が市民に育まれることがレガシーになると思う。大会で生まれる新たなエネルギーを、効果的に新しいまちづくりに生かして欲しい。150年前に開拓使が北海道を創り上げた時のようなものを、今回のオリンピックを機に北海道全体にもたらすことを期待する。
- 札幌が自然と調和して住みやすいまちだということを道内外の人に知ってもらえる機会。最先端技術の導入や電気自動車や自動運転システムといった次世代の交通システムの普及・導入も大会招致をきっかけに進んでいけばいいと思う。

- ・モノやヒトの変化以外にも、招致して運営して、成功するという経験がレガシーだと思う。IOCや国、競技連盟とのやり取り自体も良い経験になる。大会運営に関わる団体や組織の言いなりになるのではなく、招致の段階で札幌市として大会開催に向けて条件を付ける等の対策をしていく必要があると思う。
- ・小学生へのスキーボランティアとして活動しているが、今の子どもたちは、ウィンタースポーツをテレビでしか見る機会がないのだと思う。オリンピック・パラリンピックを開催することで、一流の選手を生で実際に見て、選手たちに憧れて競技を始めることに繋がればレガシーになると思う。1972年の札幌大会時に使用したリュージュの施設が、現在は利用されていないという事実がある。持続可能なまちづくりを進めるためには、競技施設等が大会後も利用されるように、子どもたちに対してウィンタースポーツの楽しさを伝えることや選手たちの情報発信などが必要になってくると思う。
- ・オリンピックは他のものには代えがたいイベントであると同時に招致から開催まで約8年の中で、テストイベントを含めた事前の準備などにも教育が関わってくると思う。8年間を見越してジュニアアスリートの育成や、教育の中にオリンピックを通じた経験、考え方を取り入れることは良い影響を与えていくと思っている。

【Dグループ】

◆オリンピック・パラリンピックを開催する場合の、 利点(期待すること)や課題(懸念すること)は何ですか。

- ・1972年は「バリアフリー」や「共生」という言葉がまだ浸透してなかった。障がいの有無に関わらず、大会を見に行けるようにしてほしい。誰もが参加できる大会にしてほしい。新しい施設を建てないのはいいが、古い施設は必ずしもバリアフリーではない。でも改修しなくてはいけないので、施設に関する調査を行って、誰もが参加できる大会にしてほしい。
- ・お金をかけて施設をつくるべきではない、税金が上がって困るという意見があるが、前回1972年に大会を行ったときに私たちが苦しめたか、というとそうではなかった。それよりもいろいろ施設が出来上がって、みんながそれを利用して、楽しんでいる方が多いと思う。経済効果等を考えると我々や若い世代に利益が還元されると思う。
- ・障がいの有無だけでなく、マイノリティーに対するリスペクトや配慮ができることこそが、本物のバリアフリー。
- ・前回の札幌オリンピックの時も地下鉄が通るなど、まちが変わった。そういうまちの大きな変化に期待したい。
- ・2020年の東京オリンピックをお手伝いして、まちの雰囲気盛り上がっていたと感じた。みんなの気持ちがひとつになる、そういった点に期待する。
- ・かつてのオリンピックのレガシーである地下鉄や施設は今でも使われている。2030年にオリンピック・パラリンピックが開催されれば、またさらに50年間、建物などのレガシーが残っていくことはすごいこと。開催されれば、海外から注目されるのも期待している。

◆本日の大会計画の説明を聞いたうえで、オリンピック・パラリンピックを開催した場合には、どのようなレガシー(大会によってもたらされるもの)が札幌のまちに残ってほしいですか。

- ・バリアフリー、誰もが共に生きられる社会、そのようなまちづくりをこの大会を通じてのこしてほしい。行政、市民共同でつくり上げられる大会にしてほしい。このワークショップも札幌市の職員ではなくて、フリーランスの方が行い、各グループのファシリテーターも大学生が務めている。行政だけが何かをするのではなくて、私たち市民も、若者も障がい者も含めて、この大会をどういうものにしていくか、ということに参加型でつくっていくというレガシーが出来上がると、それが札幌のまちづくりとしての一つの枠組みになっていくと思う。そうすればこの年のもう一つの目標であるSDGs、誰一人取り残さない社会をつくる、ことにつながると思いました。

- 建物や施設といった目に見えるレガシーではなく、北海道、札幌の人々の心や考え方が「境がなくなる」という本来のバリアフリーの観点を根付かせることが重要。
- 今の子どもたちが雪のスポーツを十分楽しめているかを確認していく。外国人がスキー場にたくさん来ているが、札幌市民は多くない。スキー授業を通して、楽しむということ、こんなことができるんだ、ということ若い子どもたちに見せることで、札幌市民の健康増進につながると思う。
- ソフト面の部分でレガシーがのこってほしい。海外の方が多く来られ、注目もされる中で、札幌はぜひ行きたいところだ、と思って欲しいので、ウェルカムな部分、言語の標記や宗教の部分でも市民がよく勉強しながら受け入れをする。そういった部分で共生社会というのがオリパラを通じて加速できればと思っている。
- オリパラを機会に札幌を知っていただく、ということのをのこせればと思っている。
- 海外の方が来て、北海道を知ってもらいたい。北海道で開催されるからには、関東等からきて、観光地とかに活発になってほしい。子どもたちが本物のオリンピックを見て、ウィンタースポーツに興味を持ってもらいたい。

【Eグループ】

◆オリンピック・パラリンピックを開催する場合の、 利点(期待すること)や課題(懸念すること)は何ですか。

- ・2030年は仮想空間、メタバースなども進んでいるため、北海道という遠い地にわざわざ行かなくても魅力発信が可能になるテクノロジーに期待したい。魅力の発信により移住者が増える可能性がある。
- ・インフラ整備やバリアフリー整備などは、オリンピック・パラリンピックの開催の有無に関わらず、今から取り組んでいくべきことだと思う。
- ・若い世代が政治や社会参加に興味を持つきっかけになる。
- ・予算の話など難しくて分からないので、自分たちのような若い世代にも情報発信してわかりやすく伝えられればいいと思う。
- ・オリンピック開催前提なのが疑問。
- ・オリンピックより今やるべきは除雪、排雪。

◆本日の大会計画の説明を聞いたうえで、オリンピック・パラリンピックを開催した場合には、どのようなレガシー(大会によってもたらされるもの)が札幌のまちに残ってほしいですか。

- ・北海道にはオリンピックが多いので、オリンピックを通したウィンタースポーツの教育の場の活気づけになったらよい。
- ・のこってほしくないものの方が多い。のこってほしいものは政治文化。きちんと議論して招致の有無を決めたという結果が大事だと思うので、他の都市だと住民投票で招致を否定しているとか、そういった市民参加のパッケージ自体を魅力としてアピールしたほうが納得できると思います。のこってほしくないものは、2020年東京オリンピック・パラリンピック際にあった、ホームレス排除など。
- ・ボランティア等に参加することでもっと札幌の事を知る機会になる。他の地域からボランティアに参加していただいて、札幌の魅力を知ってもらい、感じてもらい、札幌にとどまる人が多くなるといいと思う。
- ・莫大な赤字。その付けを回されるのは、若い世代。これからその付けをずっと払わされることになるということを考えた方がよい。東京オリンピック・パラリンピック時に、赤字が2兆円だったと有名な大学の先生が試算していた。それをどうやってみんなが返していくのかを考えたことがあるのか。札幌に経済効果があるというが、そんな効果が本当にあるのか。東京オリンピックをやって、何か実際に良いことがありましたか。景気が良くなり生活が楽になったなど、何も実証されていないのに、しっかり現実を見て考えて、と言いたい。オリンピックで札幌が良いまちづくりをするとか、そんなことよ

りも、除雪・排雪がしっかりできていて、みんなが冬でもツルツルの道路で危ないことがないように自由に歩けるようなまちづくりの方が大事だと思っている。東京オリンピックの目的は復興五輪、コロナに勝った証の五輪といわれていたが、実際にそうになっているのか、現実を見て考えませんか、といいたい。

- なにか抜本的に変わるようなことがなければ、みんなが良いレガシーだとは思わない。我々市民に寄り添ったレガシーというのを心がけてほしいと思った。
- 実際に大雪が降った場合には除雪はそっちのけで、選手だけ輸送して競技をするということになる。しかも札幌市に判断の権限がなくなるので、結局 IOC の決定が最優先になる。そういった点で除雪の話も 10 年後、気候がどうなっているか分からない中で、関係ない話ではないと思います。
- 予算の話で広報さっぽろに年間 900 円の負担だということを見たときに、本当にそれだけでおさまるのかという思いがあった。そこは現実をしっかりと見なければいけないと思った。東京オリンピックも開催していいのだろうかという思いのまま開催されたので、今回のワークショップも市民のごく一部の方しか集まれていないのもっと発信して情報を知るべきだと思った。

【Fグループ】

◆オリンピック・パラリンピックを開催する場合の、 利点(期待すること)や課題(懸念すること)は何ですか。

- ・海外からの注目が集まり、先進的な都市として国内からも注目が集まることは、札幌の人口増加や発展に寄与するというのは利点。課題は、新しい施設をつくらないための修繕費は800億円で足りるのか。バリアフリーをしっかりと行うのであればもう少しかかるのではないかというところ。
- ・経済効果に期待しつつ、開催地としての誇りを持てるようにしたい。「私の住んでいるまちは2回オリンピックを開催した都市だ」、「世界中唯一のまち」というブランディング、誇りがほしい。中途半端な施設をつくるのは良くない。私は税金を払ってもいいという立場。そういう市民もいると思う。北京を見ていると立派な施設を見るが、札幌の予算を見るとこれはつukれないのではないかと思った。あまり反対側の意見に縛られすぎるのも良くないと感じた。もう少し、リアルな金額を考えてほしい。
- ・期待するのは、いろいろな施設、設備、交通アクセスのバリアフリー化が進むこと。障がいを持つ当事者も参画してつくりあげることができるのかが課題。
- ・オリンピック・パラリンピックがスポーツへの関心のきっかけとなり、指導者の増加や生涯スポーツに使える施設が増えたりすることに期待している。冬の移動が大変なので、便利になったらよいと思う。
- ・経済効果は期待できる。電気自動車が発達したとしても、雪国である札幌で果たして機能するのか疑問。障がいのある方にしても、健常者にしても、選手の移動にしても大丈夫なのか疑問。

◆本日の大会計画の説明を聞いたうえで、オリンピック・パラリンピックを開催した場合には、どのようなレガシー(大会によってもたらされるもの)が札幌のまちに残ってほしいですか。

- ・真駒内競技場も古い施設なので、オリンピックをひとつの理由に改修費用を当てていくのかなと思っている。維持費の税金は当然かかりますし、運営する人の給料もかかるのでそこをいかに効率的にやっていくのが大事だと思う。
- ・いろいろな人がいて、いろいろな人が参加できるような仕組みが必要だよ、ということがみんな理解してくれて、多様性をお互いに認め合えるまちになっていけばいいと思った。
- ・「誰一人取り残さない」は共生社会の実現とリンクしてくると思うので、大会が誘致されたときには、共生社会というのを札幌を拠点に北海道全体にそして、全国に広げていけるようなものをのこせれば良い。

- ハード面では、まちのインフラの整備。ソフト面では、自国開催だからこそ将来の札幌を担う若者たちへの様々なチャンスとなってほしい。
- 中心部以外でも困らないような、移動しやすいまちになってほしい。交通の便が良くなれば、まち全体が活気づく。
- 東京大会の閉会式で流れたパリの大会の独創性などを参考に、札幌・北海道ブランドが世界各国、日本中に発信されるような招致の仕方が一つのヒントになると感じた。

【Gグループ】

◆オリンピック・パラリンピックを開催する場合の、 利点(期待すること)や課題(懸念すること)は何ですか。

- ・ 予備費の200億円の合理的な説明が全くない。開催市がなぜ200億円積むのか。差別やヘイトスピーチについてどうしていくのかという説明が欲しい。レガシーという言葉が嫌い。なぜもっと市民目線で語ってくれないのか。2031年以降のまちづくりへの連動とあるが、まちづくりのビジョンもないのに、オリンピック・パラリンピックのレガシーで補うのか。市民自治・地方自治の観点に反するのではないか。
- ・ 1972年当時はバリアフリーや共生社会問いた言葉は使われていない時代だった。今回使用する会場をどれだけバリアフリーにしていくのか、それに対して、どのくらい予算をかけていくのかというのが課題。もし開催されれば、共生社会という言葉がなくなるくらい、障がい、年齢、人種などにより差別されない社会の実現を望む。
- ・ そもそも招致することは決まっているのか。決まっていることについて話し合うのか、これから決めていくことに関して話し合うのか、曖昧。IOCの役員や審判団がおかしな話をしているので気を付けるべき。
- ・ 自分の子供たちに向けて、将来の目標や夢になるオリンピック・パラリンピックを見せてあげたい。
- ・ オリンピックに対する興味・関心は若い人に浸透していないのではないか。もっとオリンピックの良さをPRして、北海道、札幌のPRもできれば、北海道全体、日本全体が盛り上がると期待している。

◆本日の大会計画の説明を聞いたうえで、オリンピック・パラリンピックを開催した場合には、どのようなレガシー(大会によってもたらされるもの)が札幌のまちに残ってほしいですか。

- ・ 負(マイナス)のレガシーもあるのではないか。1972年から約60年後の2030年という時代の変化が大会概要案から感じ取れない。時代の変化も何もないのにレガシーといっても何になるのか。きちんと負のレガシーも含めて見極めることが札幌市民として言いたいこと。
- ・ 概要書を読んだが、はっきり言って分からないし、矛盾だらけ。予算の話や施設の話聞いてからののはなしになる。
- ・ バリアフリー化やユニバーサルな取組みを加速させて欲しい。設備だけでなく、札幌に住んでいる方、日本に住んでいる方、すべての方の心のバリアフリーを促進していただきたい。障がいをもった方たちがスポーツを通じて挑戦できるんだ、ということを多く知ってほしいという面でパラリンピックに期待している。すべての人が暮らしやすい社

会を実現できればいいと思っている。

- 大会が終わった後でも皆が使えるようなスポーツ施設が多くのであればうれしい。
- 冬季オリンピック・パラリンピックの招致に伴い、除雪や冬季のまちのバリアフリー化などをオリンピックに向けて力を入れて取り組んでいくことがレガシーにも繋がると思う。

(3) ワークショップでの意見 (2月12日)

【Aグループ】

◆オリンピック・パラリンピックを開催する場合の、

利点(期待すること)や課題(懸念すること)は何ですか。

- ・オリンピックによって、子どもたちの未来が明るくなるのではないか。札幌というまちの名前を世界に発信することで、たくさんの方が関心を持って訪れてくれるのではないか。サステナブルな社会を目指すというのは、オリンピックのようなきっかけがあれば、どんどん進むと思っている。もっとウィンタースポーツが盛り上がることに期待したい。パラリンピックアスリートに関心を持ってもらえるのではないか。
- ・パラリンピックを機会に障がい者の社会参加を進めることができればいい。札幌市民で障がいのある人たちもスタッフやボランティアとして参加してもらえるような設計にしてほしい。民間企業での障がい者雇用率の改善等、パラリンピックの推進力に期待。問題点を隠さずに、改善しようとする姿勢を見せるべき。大会概要案では経費を削っていたが、東京オリンピックの時に建設現場での労働環境が悪かったという指摘がされたこともある。経費を削ることだけにとらわれて、弱い立場にいる労働者にしわ寄せが来ることを懸念している。説明した上で必要な経費はしっかり確保し、そのうえで意向調査を行い、それで同意が得られるのであればいいと思う。
- ・オリンピック・パラリンピックの期間と雪まつりの期間を一緒にすると、交通網への影響があるので、雪まつりは1月に変更するのが良いと思う。
- ・反対意見を受けて、どう改善するのが大事。喜び合えるオリンピック・パラリンピックを目指して、少しでも多くの方が賛成できるようにしたほうがいい。
- ・海外に行ったときに、「札幌から来た」と伝えると「知っているよ、冬季オリンピックを開催したところだよ」と返してくれるのは、だいたい60歳以上の人。オリンピックを開催した札幌のまちを覚えてくれている。そう考えれば、たくさん人に来てもらうためには世界中に札幌という名前をしってもらう、本当にいいきっかけだと思います。
- ・自国開催は良い面だけではなく、問題点にも同じくらい目が行く場であると痛感した。この問題点を改善していける良い例に札幌がなれるのであれば、開催の意義はあると思う。

◆本日の大会計画の説明を聞いたうえで、オリンピック・パラリンピックを開催した場合には、どのようなレガシー(大会によってもたらされるもの)が札幌のまちに残ってほしいですか。

- ・施設への動線など交通の利便性は、大会開催時のみの一過性の効果になる懸念がある。大会後も、誰でも利用できるように、交通手段の整備を見直すべき。例えば、地下鉄、

路面電車、バス、JRを1枚のチケットで利用できるようなシステムを大会後も利用できるようにしてほしい。

- 子どもたちが経済事情に関係なく、ウィンタースポーツを楽しめるようになって欲しい。学校の授業でしかできないという状態ではなく、無料バスや無料で借りられる用具を充実させ、誰でも気軽に楽しめる環境づくりをレガシーとして望む。
- 真駒内公園に行くのに30分くらいかかるのが大変。真駒内駅と自衛隊駅の間に新しい駅をつくれれば利便性が高まる。
- 大会後も施設に時間をかけないで通えるように整備しないと負の遺産になってしまう。大会後にこんなに良くなった、開催して良かった、となるようにしてほしい。

【Bグループ】

◆オリンピック・パラリンピックを開催する場合の、 利点(期待すること)や課題(懸念すること)は何ですか。

- ・札幌にも、いまだに改善されない様々な障がいや課題がのこされている。誘致にあたり、障がいの有無に関わらず、子どもからお年寄りまで様々な人が楽しんで参加できる大会になるよう考えてほしいと思う。利点としては、この状況が改善されること。言語に障がいを持つ身としてヘルパーが必要不可欠であり、ヘルパーと一緒に行動することへの配慮が必要であると思う。例えば、二人で入れる大きなエレベーターや身障者トイレの整備など身障者の移動や休憩に配慮する整備をお願いしたい。チケット取得への課題として、障がい者とヘルパー、2人分のパック料金としてくれれば、観戦しやすい。一人分のチケットしか取れないと、自分では動けないので観戦できない。
- ・まちの整備や国際化が進み、国際的な標示や標識が設置されることは利点。課題は、障がい者の方の冬季における移手段。そこを考えた整備をしてほしい。
- ・インフラの整備が進み、不便なところがオリンピック・パラリンピックを契機に少しでも改善されればと思った。札幌の素晴らしさが世界に発信されるのが良い。特に、いまの子どもたちが、表彰台に立つということを想像すると、誇らしいし、楽しみ。オリンピック・パラリンピック開催後の振り返りが必要。8年後のオリンピックの話より、目前の課題も同時並行して、市議会も市民団体も市民も一丸となって課題を抽出し、解決していく必要がある。課題として、今はそのサイクルが機能していないと感じる。
- ・例えば、人口が減っている地域に施設をつくり、まちを活性化するのが大事。前回大会でつくったものは、活用できていないものが多いというのが課題。例えば、リュージュ・ボブスレーのコースは、スキーに行くたびにボロボロになっているのを見る。そういった後利用はしっかり考えていかなければならない。しっかりのこる、障がいのある方にも活用できるもの考えるべき

◆本日の大会計画の説明を聞いたうえで、オリンピック・パラリンピックを開催した場合には、どのようなレガシー(大会によってもたらされるもの)が札幌のまちに残ってほしいですか。

- ・オリンピックはまちづくりに直結すると思っている。教育に対してもレガシーをのこせると思う。ボランティアに参加したときにオリンピック憲章とは何かという勉強をした。そもそも「オリンピックとは何なのか」ということを市民が知らないのではないかなと思う。オリンピックによる経済的なメリット・デメリットの前に、オリンピックは人を成長させるきっかけになるものだと思っているのでそこはレガシーとしてのこると思う。

- 冬は移動が大変。観客が快適に会場まで移動できるようにする必要がある。また、会場として利用した施設を障がい者専用施設としてのこして欲しい。
- 記憶にのこって、後に伝承できるレガシーも考えてつくっていかなければならない。いまのところ、メリットの部分しか聞こえないという印象なので、デメリットもお話ししてほしい。
- 今後の誘致活動の際には、会場のバリアフリー化や簡潔明瞭な大会運営を行う準備が必要。自分のような障がい者の現状も、参考にしていきたい。
- アスリートと私たちが勇気を与えあうという相互関係は素晴らしいもの。現在はコロナで制限されているが、テスト大会でもいいので、選手、ボランティア、市民のさまざまな立場の人々が一緒になる機会をつくる必要があるのではないかと感じた。

【Cグループ】

◆オリンピック・パラリンピックを開催する場合の、 利点(期待すること)や課題(懸念すること)は何ですか。

- ・インフラ整備の加速に期待。子供たちに希望を与えることができる。2030年はSDGsの目標年でもあるので、課題も懸念もあるが、みなさんの力を合わせて、克服できれば、解決できればと思っている。
- ・北海道、札幌の魅力を世界にアピールできるのが利点。感染症や様々な事態に対するオリンピック委員会の対策や進め方には不安がある。協議の過程を見える化することで市民は安心することができるし、選手や関係者も安心できると思っている。
- ・オリンピック・パラリンピックはトップ選手の背景に触れることができ、感動するし、勇気を貰えるから良い。自分の住む都市で開催されれば選手との交流機会があるかもしれないので、貴重な機会だと思う。「アスリートファースト」と謳いつつ、過酷な環境での実施もあった東京2020大会を参考にして、競技によって実施する季節を分けるという配慮があってもいいのではないかと思っている。東京2020大会の疑問点を解決するのが先決で、まだ札幌に招致する話をする段階ではないと思う。
- ・利点は経済活性化や雇用の創出。北京大会も、東京大会もいろいろ言われていたが最終的には、感動した。スポーツはすごいということを知れる場になるし、子どもにとってもいい影響を与えられる。懸念は情報の透明性がないということ。市民の意を反映してもらえればと思う。「札幌ならでは」と言っているが、目的やビジョンが抽象的であり、これでは長野でもできるのではとってしまう。あと8年間あるので、よりこれらを明確化していくべき。

◆本日の大会計画の説明を聞いたうえで、オリンピック・パラリンピックを開催した場合には、どのようなレガシー(大会によってもたらされるもの)が札幌のまちに残ってほしいですか。

- ・施設やまちの整備とともに、人々の心に思い出、記憶をのこして後世に繋いでいければいい。
- ・開催前提のテーマには違和感があり、おかしいと思う。
- ・雇用が一時的に増えると思うが、それをどう維持していくのか考える必要がある。コロナ禍前までは外貨で稼いできた北海道の収支構造を、内需で稼げるような、常に稼げる状態をどうつくるのかをこの8年で考えていければオリンピックのレガシーになる。
- ・説明の中で「環境技術を世界に発信する」というのが4番目に紹介されていたが、1番目に挙げてほしい。札幌市の姿がどうなるのかということをもっと明確に示すべきであり、共感を味わえるようなオリンピックに持っていければ賛同も増えると思う。

- 札幌がオリンピック・パラリンピックを通じてどう変わっていくのかを、より明確に伝えてほしい。まちづくりの中に健康やスポーツなどを取り入れることが、幅広く市民の共感を得られるようであれば、それはレガシーになると思う。
- 大倉山を会場として使用する場合、ジャンプ台を増設しなければならない。そのあたりもしっかり説明して、お金がかかるものは、かかると発信していくことが信頼につながると思う。
- テーマは抽象度が高くないと皆さんに伝わらないということはあると思うが、いまの内容だと、例えば「長野らしい」とすり替えても読めるぐらいのものに感じている。ここから8年間でどんどんブラッシュアップしていくと思うが、「札幌らしい」とは何だろう、ということを改めて考えてテーマを決めれば、より理解を得られるのではないか。
- せっかく札幌でやるのであれば、しっかりビジョンを明確にする必要がある。

【Dグループ】

◆オリンピック・パラリンピックを開催する場合の、 利点(期待すること)や課題(懸念すること)は何ですか。

- ・スポーツ人口の底上げをしてほしい。ラグビーワールドカップでも、ラグビーを知らなかった人が知るきっかけになったし、前回の札幌大会で笠谷選手等のスキー選手が大活躍して、スキーが市民に広がっていった。生きているうちに、もう一度オリンピック・パラリンピックを見たい。
- ・北海道は季節に関係なくスポーツする人が少ないと感じている。冬に外に出ないという方も多いが、冬に身近でクロカン等のできる環境があるのは素晴らしいと感じている。色々な形でオリンピックの文化を経験することがレガシーになり、市民に蓄えられていく。オリンピック・パラリンピックの価値をもっと広げていくべきだと思う。
- ・札幌、北海道の経済向上のために、オリンピック・パラリンピックを契機に外資を流入させ、経済が回っていくきっかけとなることを期待する。
- ・北海道、札幌はお金がある都市ではないから、大会にかかる費用面が課題だと思う。一方で、北海道全体には競技用の施設は揃っているのだから、札幌だけでなく、オール北海道として取り組むことで、札幌市の負担を減らせるのではないかな。
- ・若い世代までスポーツをするという習慣作りや文化がどこまで行き渡るか。
- ・課題は空路をどう増やしていくのかということ。新千歳空港は自衛隊と併設なのでこれ以上便数を増やせない。丘珠空港は滑走路を延伸しないとジャンボが着陸できない。旭川空港と連携して、海外から入ってくる飛行機をいかにオリンピック開催までに増やしていけるのか。海外から国内の空路を成田・羽田に頼ってはいけない。
- ・IOCに対して受け身の態度をとってはいけない。言うべきことは伝えていながら、札幌オリンピック・パラリンピック招致を進めていくべき。

◆本日の大会計画の説明を聞いたうえで、オリンピック・パラリンピックを開催した場合には、どのようなレガシー(大会によってもたらされるもの)が札幌のまちに残ってほしいですか。

- ・大会招致の初期段階から「どういったレガシーを札幌にのこすか」を見越して取り組めればいい。安心安全にどうやって取り組んでいくか等も考えながらオリンピックの準備を進めていければいい。
- ・スポーツの意義を道民や国民も考えていく必要がある。生活の一部としてスポーツを習慣にしていくことが、予防医学にも繋がっていくことを広めていくべき。オリンピックはさらにこの気持ちを醸成してくれるというのがレガシー。五体満足でなくてもこんな

にすごいことができるということが分かる。意識の変革としてのレガシーに繋がるので、パラリンピック開催の意義は大きい。

- 良質な雪が降るのが北海道なので、それを世界に周知してスノースポーツへの参加人数を増やしていければいい。言葉の壁が解消された環境づくり。
- 長野オリンピックの際は、環境破壊が叫ばれていた。札幌で開催するとしたら、北海道の環境の美しさを持続可能にしながらオリンピックを開催するということをやってほしい。北海道の大自然の美しさを世界中の人に見ていただいて、大会後もそれを維持していければいいと思う。
- いろいろな施設の改修は観光にもつながっていく。クロカンもいまはマイナー競技かもしれないが、オリンピックパラリンピックを通して、競技の面白さやコース・施設が整っているということも知ってもらえれば、観光に組み込まれる可能性はあるのでレガシーになりえる。観光施設へのアクセスや公共交通機関の利便性向上も大事なレガシーになっていくと思う。

【E グループ】

◆オリンピック・パラリンピックを開催する場合の、 利点(期待すること)や課題(懸念すること)は何ですか。

- ・オリンピック・パラリンピックが開催前に盛り上がりには欠けると勿体ないので、ウィンタースポーツ関係者の一体感をつくる必要があると思う。例えばラグビーワールドカップの時には大会前にドラマ制作などで盛り上がりをつくったというものがあった。新月寒体育館を新設すると思うが、つくったあとの稼働率・採算性はどこまで上げられるのか。北京大会で女子アイスホッケーが活躍した経緯から、札幌にアイスホッケー文化を根付かせることにより、新月寒体育館をアイスホッケーの聖地化として目指してもよいと思う。また、一つの競技だけではなく複数の競技を開催したり、音楽イベントを開催したりできるアリーナとすることにより、効率的な稼働に繋がると期待する。今回の大会ビジョンが、抽象的過ぎていて今のトレンドに合わせている気がする。例えば「世界一冬をエキサイティングに楽しめる都市「さっぽろ」を創り上げる」というようなビジョンのほうがよいと思う。
- ・190万人都市で、豪雪地帯で快適に生活できている、ウィンタースポーツにも恵まれているといった札幌の特性を、2030年をきっかけに、2030年以降も次の世代に残せるようにしたい。除排雪従事者は積雪時期に仕事が忙しくなるため、冬季スポーツを楽しめない。2030年をきっかけに、例えばICTを活用した除雪無人対応とすることにより、冬季スポーツを楽しむことができる。このように、ただオリンピック・パラリンピックを開催するのではなく、札幌、北海道、日本を活性化し、次世代にのこしていけるような取組みにつながればと思う。
- ・オリンピック・パラリンピックの開催によって、世界各国から来る選手や観光客と触れ合えるが、予想が難しい感染症や大雪に対する対策がきちんとできるのかが懸念点。
- ・少子高齢化の解決策がオリンピックというのは強引だと感じる。海外の人にとって魅力的なスポーツの都市というのが、大会の時だけではなく、大会後もつくっていけるのか。稼働率というのは、札幌市民、道民のなかでスポーツが好きな人が増えないと上がらないので、オリンピック・パラリンピック開催をきっかけに、札幌市として計画的に進めることができれば、競技者だけでなく観戦者を増やすという部分も力を入れていくべきだと思う。
- ・100万人単位での4年間かけての聖火リレーなど、全員参加型のような今までにない形でのアピールを期待。
- ・クライメイトポジティブな大会を目指すとするが、除雪をする限り、二酸化炭素排出量を減らすというのは難しいと思っている。自動運転ができるような技術開発への投資を札幌市から推し進めていくといいと思う。

◆本日の大会計画の説明を聞いたうえで、オリンピック・パラリンピックを開催した場合には、どのようなレガシー(大会によってもたらされるもの)が札幌のまちに残ってほしいですか。

- ・オリンピック・パラリンピック招致によって、マイナーなウィンタースポーツの普及やバリアフリー化がよりまちに浸透すれば、結果的に市民の子育てや生活のしやすさに繋がり、それが少子高齢化の対策となるのは説得力のある提案になると思う。
- ・観光地としてだけでなく、MICE整備を進めて、国際会議ができるようなまちづくりが今回の招致をきっかけにできれば、観光だけに頼らないまちになれるのではないかと思う。
- ・少子高齢化などが解決できるような取り組みの結果が、成果としてのこるような形になればいい。それが、すごく魅力的なまちになっていくだろうし、自分たちや子供たちが誇りに思えるようなまちになってくれると思っている。あくまで、オリパラはきっかけであって、その先を重要視して取り組んでいきたい。意見を言い合いたいと思っている。
- ・モノと気持ちの両面だと思っている、モノをのこして、市民が活用して、観光地にできるか。オリンピック開催したから行ってみよう、オリンピックの思い出があるよね、というのが市民にのこるかどうか。オリンピック・パラリンピックが市民の心にどれだけ刻まれるかが大事。そのためには、オリンピック・パラリンピック開催に市民がどれほど関われるかが重要。オリンピックの体感ツアーができるような施設づくりが観光客誘致には効果的。
- ・生活するうえで、ちょっとした不便さはまだある。ゼロにはならないが、それらが解消されれば開催したレガシーとしてのこっていくと思う。

【Fグループ】

◆オリンピック・パラリンピックを開催する場合の、 利点(期待すること)や課題(懸念すること)は何ですか。

- ・オリンピックを生で見たいというのと、虹と雪のバラードを聞くたびに1972大会を思い出すことがあって、ぜひ2030年に開催してもらいたい。東京大会でのボランティア活動が思い描いていたものとは違う形になってしまったため、もう一度そのボランティアとして参加するチャンスが欲しい。税金を使って施設を使うという問題があり、そういうことに反対する方が多い。みんなが理解をして将来に発展していくことがあるということが分かれば、お互い理解できると思っているので丁寧に発信して欲しい。
- ・1972大会は地下鉄の開業など、大会の前から市民としてワクワクすることがたくさんあった。今回は節約しなくてはいけない状況だと思うが、大会に向けたワクワク感が欲しいと思っている。市民として参加できるものにする。例えば、ジャンプ競技の入場整理は〇〇町内会が担当する等、具体的な事例が作れるといいと思う。懸念は投資効果がどれくらいあるのかという部分。かかる費用が大きく、東京大会のようにアクシデントが生じるとお金の動きが変わってしまうので、そういったことにも配慮して進めてほしい。

◆本日の大会計画の説明を聞いたうえで、オリンピック・パラリンピックを開催した場合 には、どのようなレガシー(大会によってもたらされるもの)が札幌のまちに残ってほしいですか。

- ・オリンピック・パラリンピックをきっかけに国際交流・国際化を意識するようになった。
- ・一般市民の盛り上がりがない。本当であれば市民からこんなことをやりたいからぜひお願いします、という声が上がってくる。施設をつくるにしても大会が終わっても役に立つように、オリンピック・パラリンピックで利用した施設は、開催後もみんなで利用するために保守・管理を行うといった流れをもっと手前で示す方が良い。
- ・競技の施設も大事だが、観光分野で発信して札幌の魅力をもっと海外の方にみていただく、そしてオリンピックが開催されればいいと思う。
- ・国際都市としての知名度向上と、競技施設がレガシーとしてのこると思う。アメリカでホームステイをしたが、北海道から来たという話をすると、「あのオリンピックを開催した札幌のあるところか」といわれた。そのくらいオリンピックを開催することで国際都市としての知名度は上がる。

【Gグループ】

◆オリンピック・パラリンピックを開催する場合の、 利点(期待すること)や課題(懸念すること)は何ですか。

- ・まちの活性化が期待できる。特に冬季に必要となるバリアフリー化が進むのではないかと期待している。若い世代に一生のこる思い出ができるのではないかと期待している。東京オリンピックを間近で見たので、新型コロナウイルスへの対応や大雪への対応等、予期せぬ事態に対して柔軟に対応できる組織を作ることができるのかが懸念点。その責任をどこがとるのか。市民にしわ寄せが来ないのか、というところが大きな心配。
- ・子供のころにオリンピックがあるというのは、未来に対して希望が持てるし、海外の人たちに対する見方も変わるので、小さな子供のためにもオリンピックというものは必要なことだと思っている。財政的などが気になるが、大会運営費には税金は使わないとなっているので、市民の負担が少なければ、とても良いこと。ただ、北京オリンピックを見ていても平和の精神というものが変わってきているとも思うので、そこは気がかり。
- ・オリンピックはイベントだから楽しい。問題はそれが適正かどうか。長野・東京・平昌は予算通りになっていない。予算を超過した分は札幌市の市債を充てることになるので、オリンピック・パラリンピックの開催が、それに見合うものになるかどうか。大会運営費の収入にスポンサー収入があるが、スポンサーもどんどん降りている状態。計算上は税金を投入しませんといっているが、間違いなくそうはならない。
- ・予算通りにいかないというのが、東京2020大会時の教訓としてあるので、その点を反面教師にして、対策を講じた上で取り組んでほしい。
- ・悪い面ばかりが強調されるのではなく、それを良い方向に転じていくことにより、札幌大会が今後のオリンピック・パラリンピック開催の手本になることを期待する。

◆本日の大会計画の説明を聞いたうえで、オリンピック・パラリンピックを開催した場合には、どのようなレガシー(大会によってもたらされるもの)が札幌のまちに残ってほしいですか。

- ・降雪量の多い都市だからこその不便さや大変さを打開するバリアフリー化、まちづくりのアイデアを冬季の厳しい環境を逆手に取って生み出すことができれば、レガシーになる。
- ・IOCといった大きな組織だけでなく、市民がボランティアやいろいろな形で参加していくことで、「自分たちが作り上げたオリンピック・パラリンピック」と記憶が残ることで、一過性のものではなく、何十年と記憶に残るものになっていくのではないかと

う。

- 若い世代の人たちがたくさん関わっていくことで、自分たちが作り上げたオリンピック・パラリンピックだと思える大会にしていくことが重要だと思う。
- 過去の大会を鑑みても、結果的に当初予算をオーバーすることが多かったと思うので、予算内で開催できた大会というレガシーをのこしたい。
- レガシーはオリンピックのおまけのようなもの。大会概要案に書いてあるレガシーはオリンピック・パラリンピック招致でなくても、実現することができる。知恵と工夫を使えばもっと安くできる。そこまでしてオリパラを開催するのであれば、もっと違うことができるのではないか。今後100年考えて、オリパラで赤字を出すくらいであれば、冬の心配がないようなまちづくりをして、将来の子どもたちに役に立てたほうがいいと思う。札幌市の限られたお金をオリパラに使うのは得策ではないと感じる。

(4) アンケート結果 (2月9日)

<p>問1. 今回のワークショップをどこでお知りになりましたか？(複数回答可)</p>															
<ul style="list-style-type: none"> ・ SNS (Facebook/Twitter/Instagram など) /7 件 ・ 札幌市ホームページ /5 件 ・ 知人からの声掛け /5 件 ・ 設置チラシ /3 件 ・ 広報さっぽろ /2 件 ・ スポーツ局からのメールでの案内 /1 件 ・ 北海道新聞 /1 件 ・ ラジオ /1 件 <p style="text-align: right;">回答数: 23 件</p>															
<p>問2. 冬季オリンピック・パラリンピック招致についての情報は、理解しやすかったですか？</p>															
<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="color: red;">●</td> <td>とてもわかりやすかった</td> <td>8.7%</td> </tr> <tr> <td style="color: orange;">●</td> <td>わかりやすかった</td> <td>34.8%</td> </tr> <tr> <td style="color: green;">●</td> <td>ふつう</td> <td>30.4%</td> </tr> <tr> <td style="color: cyan;">●</td> <td>わかりにくかった</td> <td>13%</td> </tr> <tr> <td style="color: blue;">●</td> <td>たいへんわかりにくかった</td> <td>13%</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">回答数: 23 件</p>	●	とてもわかりやすかった	8.7%	●	わかりやすかった	34.8%	●	ふつう	30.4%	●	わかりにくかった	13%	●	たいへんわかりにくかった	13%
●	とてもわかりやすかった	8.7%													
●	わかりやすかった	34.8%													
●	ふつう	30.4%													
●	わかりにくかった	13%													
●	たいへんわかりにくかった	13%													
<p>問3. 問2について、どのようなことが理解しやすかったか、理解できなかったかをご記入ください。</p>															
<p>【とてもわかりやすかった】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 秋元市長、船山様、ファシリテーターの方などいろいろな角度からご説明いただいたこと。 ・ オリンピックを行う意図や計画内容については、図解されていてわかりやすかったと思います。わからなかった点としては、札幌オリンピック後の札幌市をどのような都市にしていくか、という点が具体的ではなかったと思いました。 <p>【わかりやすかった】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民の意見を聞く場であって、全ての質問に必ず答える場ではないという事を、事前に、また応募フォームにも、しっかり周知できていれば良かったかもしれません。 ・ 参加者の方が見当違いな質問ばかりで話が逸れてしまう事が多く理解できない部分もあった。 															

- ・札幌で開催する意義。
- ・招致するうえで、さまざまな観点からの利点やレガシーを知ることができました。
- ・資料が簡潔でよくまとめられました。
- ・大枠は理解できたが、その根拠等は現時点では不明。
- ・人口減少をオリンピックで食い止めようとしていることはわかりました！
- ・新たな施設をつくらないこと。

【ふつう】

- ・他の参加者の皆様の意見を聞くことが楽しかったです。
- ・説明内容にもう少し具体性があった方が分かりやすかったかもしれません。
- ・具体的な目標とする施策が理解できなかった。
- ・特別、真新しい情報ではなかったので再認識という感じでした。
- ・札幌市が招致をしたい意欲が良く分かった。
- ・本当にお金がいかにあからぬのか、わからない。
- ・概要案の内容を要約するのであれば不要と思いました。
- ・どんな競技あり、どこで各種目を行う構想を考えてるのは、理解できた。一方で、共生社会の実現やSDGsをどのように実現するのかが、理解できなかった。

【わかりにくかった】

- ・概要（案）通り、レガシーの連呼で、将来に向けた市民目線の懸念に触れる説明が全くなかった。
- ・市のHPやSNSで自分から取りに行かないと分からない状態だったので、一次情報に触れやすい状況があった方が良かった。このワークショップの参加が決まってから報道ではなく一次情報はどこにあるか必死に調べました。
- ・五輪でこれが可能になると提示されたものがありましたが、現状では判断のしようがないと感じました。バリアフリー化など、五輪開催をしなかった場合にどこまでできて、開催すればさらに何ができるのが明示されていなければ議論にならないので、資料の修正をお願いします。
- ・そもそも、自販機と点字ブロックは五輪なしで実現できると思いますし、市の開催概要に記載されている「2030年度末までに利用者数の多い集客施設等を結ぶ経路のバリアフリー化率100%」のような目標が、なぜ五輪なしに実現できないのかを説明して欲しいです。

予算面の懸念は多く出ていたかと思います。施設整備費と大会運営費（組織委員会予算）の二本立てとして説明されていましたが、これが正確な区分が理解できませんでした。東京大会の表示方法と対比する形で提示していただくようお願いします（東京の当初予算の何がどこまで膨張したかを含めて）。また、東京大会の膨張

分の経費負担を明示してくだされば、住民の納得も得やすいと思います。

経済効果について、誰がどのような資料を元に試算したかがわからないので評価のしようがありませんでした。例えば、2020年にオックスフォード大の研究者が五輪の予算膨張を検証し、五輪に経済効果はないとする論文を出しましたが、こうした資料はどのように評価しているのでしょうか。既存資料との関連も明示して、検証過程を示してほしいです。付け加えると、全体の施策案について、関わった研究者を明示して欲しいです。

昨年の東京五輪の経済効果、今冬の北京五輪の経済効果も示して欲しいです。感染症などで無観客になった場合の経済効果も提示する必要があると思います。そもそもパンデミックや悪天候を想定した具体的な開催プランが必要だと思います。直近の大会の経済効果について、まだ検証できないのであれば、判断をする時期ではないということだと思います。

詳細な資料については時間の制約もあり説明し切れないとも思いますので、適宜リンクで案内するなど対応をお願いします。

「スポーツによる健康で活力ある社会」「世界に躍進する魅力あふれるまちづくり」「全ての人にやさしい共生社会の実現」について、登壇者の方からなされる「日本選手の活躍」とかメダルの話、「北海道の選手」といった発言が、掲げられているテーマとどうつながるのか理解できませんでした。スポーツを五輪に象徴化することの極端さ、メダル至上主義、国家主義や地元優先主義など、開催自治体が自分たちの掲げる理念と相容れない価値観を発信していることに危険を感じました。高梨沙羅さんの謝罪が話題になっていますが、メダルをとれないことで国民に謝罪する姿がスポーツの正しい姿なのか疑問に思います。仮に招致を進めるのであれば、自治体別や国別の応援、メダル獲得数カウントを禁止するなど、札幌市としての独自性を見せて欲しいです。

加えて、共生社会を「やさしさ」としてまとめるのは、マイノリティの人権擁護や多文化共生の議論から言えば間違いです（これらは気持ちと関係なく実現すべきものです）。ご担当者の方にそうした知見がないとは思えないのですが、どうしてあのような表現になったのでしょうか。

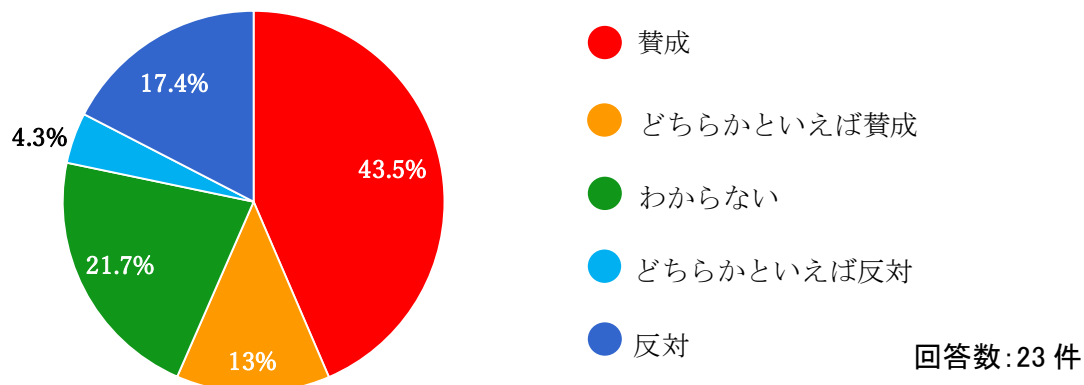
全体でもグループワークでも指摘された点ですが、プレゼンテーションを行った方が「大会をつくるに当たって」と発言したり、配布資料にも「開催する場合の利点」などの表記があり、招致に関して中立には見えない表現や進行のあり方に懸念を覚えました。

【たいへんわかりにくかった】

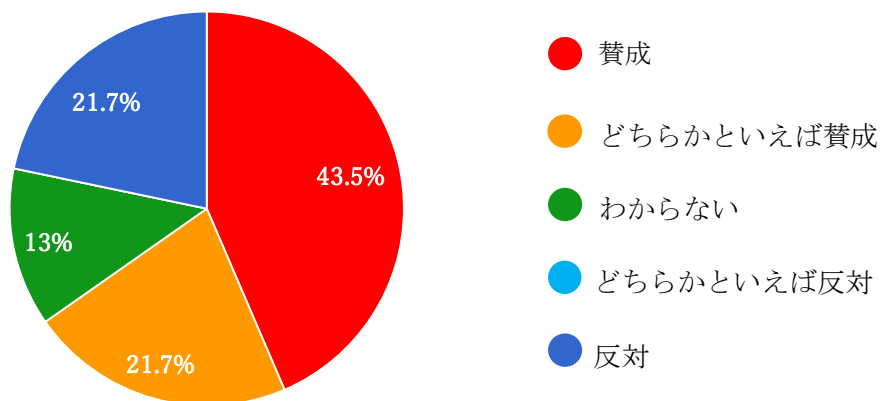
- ・五輪開催する理由がどれも、わざわざ五輪を開催しなくてもすべきことだし、出来ること。論理的に無理。五輪開催の意義を見出せない。

・何故か札幌市を代弁？してプレゼンする馬場さん、純粋な善意でファシリテーターを努めただろう学生さん、そしてその影に隠れた札幌市、いずれも自分たちが何を提案していて、実際のところ何を行っているか、決定的に理解できていない。札幌の魅力を世界にアピール！などキラキラしながら言っているが、男性であるだろう馬場さんが司会、女性であるだろう学生に馴れ馴れしく呼びかけながら進行がなされる様子など、世界基準から見て完全にアウトである。しかし、主催者の誰もそのことを分かっていない。日本国内の女性蔑視をそのまま再現してしまっていることに気づいていないし、気づけない。東京五輪の森喜朗さんの発言など、日本の女性差別の根深さとその圧倒的で素朴な無理解が世界に発信されたが、今回関わった人たちが自分たちも同じことを繰り返そうとしていることを分かっていない。おそらく理解することもできないと思う。国内向けの共生社会とか札幌の魅力！など、世界から見て意味不明どころか差別意識の無邪気な自己開示でしかない。しかし海外で報道されていることと国内の報道のズレにも気づけない。自分たちの素朴で無邪気な善意がどれだけズレた考えであり、有害であるかを分かって欲しい。でも伝わらないと思う…本当に絶望的な気持ちになる。若い方たちの圧倒的な善意と無知は、結局のところ差別される側を助けることは一切ないし、弱者を傷つけながらそのことに気づきもせず、また同じことを繰り返す。何が理解できなかったかをこちらに聞くより、自分たちが何を理解できてないかを考えて欲しい。ちなみに、今回の馬場さんやファシリテーターの方は有償ですか？ボランティアですか？お金はちゃんと払うべきだと思います。札幌市はきちんと労賃を出して下さいね。そもそもあれだけビッグな商業イベントで、ボランティアだらけなのが謎です。経済効果があるなら、ちゃんと還元して下さい。

問 4. 今回のワークショップに参加する前は、札幌市が冬季オリンピック・パラリンピックを開催することをあなたはどのように思っていましたか？



問 5. 今回のワークショップに参加して、札幌市が冬季オリンピック・パラリンピックを開催することをあなたはどのように思いますか？



回答数: 23 件

問 6. 問 5 で「賛成」、「どちらかといえば賛成」と回答された方
その理由について、次の中から当てはまるものを 3 つまで選んでください。

- ・北海道・札幌市の PR につながるから/10 件 (66.7%)
- ・雇用創出や経済効果が期待できるから/10 件 (66.7%)
- ・子どもたちに夢と希望を与えるから/8 件 (53.3%)
- ・まちのバリアフリー化が進むから/8 件 (53.3%)
- ・国際交流につながるから/6 件 (40%)
- ・SDGs などの環境問題への取組が促進されるから/5 件 (33.3%)
- ・世界中のアスリートの活躍を見られるから/4 件 (26.7%)
- ・ウィンタースポーツの振興につながるから/3 件 (20%)

回答数: 15 件

問 6. 問 5 で「わからない」と回答された方
その理由について、次の中から当てはまるものを 3 つまで選んでください。

- ・IOC と適切なリスク分担がされるのかわからないから/2 件 (66.7%)
- ・オリンピック・パラリンピックに対する期待と懸念の両方があるから/2 件 (66.7%)
- ・不測の事態が発生した場合、税金が使用されるのかわからないから/1 件 (33.3%)
- ・大会についての情報が少なく、わからないことが多いから/1 件 (33.3%)
- ・競技を直接観戦できるのかわからないから/1 件 (33.3%)
- ・2030 年が先のこと過ぎて、現時点ではわからない/0 件
- ・経済効果の実現につながるのかわからないから/0 件
- ・関心がないから/0 件

回答数: 3 件

<p>問 6. 問 5 で「反対」、どちらかといえば反対」と回答された方 その理由について、次の中から当てはまるものを 3 つまで選んでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の施策に注力してほしいから/4 件 (80%) ・開催に多額の予算が必要だから/3 件 (60%) ・オリンピックやパラリンピック以外の方法で 北海道・札幌市の魅力を発信することは可能だから/3 件 (60%) ・北海道/札幌市のみで解決が難しい災害や感染症など不測の事態への 対応が不安であるから/1 件 (20%) ・オリンピック・パラリンピックが好きではないから/1 件 (20%) ・経済効果は薄いと考えているから/1 件 (20%) ・大会時に道路や公共交通機関の利用客が増加し、生活に支障をきたすから/0 件 ・大会で利用された施設が適切に管理・維持されるのかわからないから/0 件 ・犯罪やテロが発生する可能性が高まるから/0 件 <p style="text-align: right;">回答数:5 件</p>
<p>問 7. 本日のワークショップの感想をご自由にお書きください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間が短く、ファシリテーターの意見集約も不十分。(オンラインの限界もあって)。市側に市民の意見に少しでも回答しようとする姿勢が見えなかった。市議会の特別委員会においてさえ回答しようとししないのだから、「開催ありき」のアリバイづくりにしか見えないと思う。 ・運営した方お疲れ様でした。ただ残念ながら議会答弁の「丁寧な説明」のアリバイ作り以外の何物でもないという感想です。そして、自分も札幌市に幾つも確認したい事がありましたが、ほとんど聞く機会もなく、札幌市は「賛成以外の声を求めている。聞くつもりもない。」という方針だということは分かりました。大変残念です。 追記：グループのファシリテーター。自分のグループ以外も頑張りましたね。こういう賛否が別れる会議では中々難しいものです。辛辣な意見もありましたが、それは気にしないように。大人でも難しいです。 ・1 点、他の人も言ってましたが、呼びかけは「〇〇ちゃん」やニックネームは避けた方が良いと思います。自分も含めて、かなり資料を読み込み、議会答弁も確認した上で真剣に臨んでいる人間からすると若干おチャラけているという印象を持てしまいます。次回も頑張ってください。 ・招致ありきの姿勢に見えた点は問題と思いますが、札幌市長が住民と対話する姿勢を見せた点は評価しています。ただ、質問に対して返答を求める声が多かったですし、説明義務のある説明会を別途開いていかないと、住民と対話したと十分には言えないと思います。今回は説明会ではないことを強調すべきだったと思います。 プレゼンテーションを行った方について、大変なお仕事を任せられこなしていたと思います。しかし、画面上女性に見えるファシリテーターを「ちゃん」づけ、男性に見えるファシリテーターを「くん」づけで呼ぶなど、ジェンダー平等を進めるはずの札

幌市の公的なイベントで、むしろジェンダー役割を固定化する不適切な発信を行っていた点が気になりました。先に指摘した共生と「やさしさ」の点もそうですが、札幌市の担当者はそうした点に本来もっと理解があると思っていたので、正直に言って驚いています。

グループワークのファシリテーターの方、頑張っていてくれていたと思います。ただ、チャット欄で指摘された方もいたように、まとめの発言で五輪に肯定的なものを取りあげる傾向が顕著に感じました。そもそも五輪についてよく知らないといった印象が強く、「札幌の魅力を発信」「スポーツの力」「予算の問題」のようなよく知られた話題とは別の視点に関して、おそらく知識が不足しておりまとめることができていなかったと思います。若い方を起用する姿勢は評価しますが、プロのファシリテーターに任せる方が、重大な問題だけに適切かも知れません。

あるいは、これと別に住民自治専門の研究者を入れた住民会議のような場を設けて、そちらで議事録をきちんととって後世に残る議論を行うこともしたほうがよいように思います。意思決定のプロを入れてはどうかという提案です。五輪そのものについても、関連の著作や論文のある研究者を賛否問わず読んで、論点を洗い出す作業も行って欲しいです（広報さっぽろも偏り過ぎじゃないですか？）。そして、今回のイベントに限らず、市に寄せられた意見は、返信も含めて公開して欲しいです。

先に指摘した通り、本日の札幌市の説明資料は分からない点が多かったです（指摘した点は札幌市ホームページの開催概要にも当てはまります）。他方で、仮に札幌市の説明資料がより充実したものになっても、既存の資料にはIOCとの開催都市契約後の話が一切出てきませんし、想定外の事態が起きるのはそこからだと思います。組織委員会やIOCの意向、また道や政府、メディアやスポンサーとの関係など、札幌市長の権限を超えた判断が行われる場面も多くなります。札幌市が全てコントロールして開催できるかのような説明は問題があると思います。

東京都知事の判断を無視してマラソンは札幌に移されました。今度は札幌がそのように裏切られる立場になり得ることも明示すべきです。今年の東京五輪の大混戦が経費の問題だけだったかのような姿勢も疑問です。まずは東京五輪を開催してよかったかどうか、札幌の住民や都民、復興五輪の舞台になった東北の方々、また研究者の意見などを検証して公表して欲しいです（研究者を呼ぶよう繰り返し指摘しているのは、札幌市がどのような資料を元にどのような判断を行い、また適切に判断を行う能力のある職員がいるかが不明だからです。研究者であれば、どのような立場であるか、選定に偏りが無いかを住民も自身で調べることができます。客観性の担保の点で重要だと思います）。

パラリンピックの強調について、有形・無形の対応を必要とする層が開催を望んでいるか判断できません。マジョリティ側から見た支援の押しつけにならないよう、既存の意見聴取に参加できない方々が、本当にパラリンピックを望んでいるかを調査

して下さい（昨年東京パラリンピックの開催是非が議論を呼んでいた時期、ある札幌の障がい者団体の方が、パラリンピックは自分たちに何もしてくれないと発言していました）。結局パラスポーツができる層だけに利益があった、などにならないようお願いします。共生社会をうたっているのですから。

今回のワークショップは、五輪が依然として魅力的な世界的イベントであることが前提になっていましたが、この点についても検証を行って欲しいです。招致を辞退する都市も多く、IOCの腐敗を報じる国際報道も多いです。テレビで見る分にはいいけど開催するのはイヤというのが現在の五輪の扱いではないでしょうか。世界的視点から見た五輪の位置づけの検証も是非行って下さい。

最後に、今回のワークショップや市の開催概要で、具体性のないままイメージだけで話を進める現状を危惧しています。例えば、開催概要の「オリンピック・パラリンピックが私たちの心にもたらすもの」のような検証不可能な説明を行うことは、議論を行う上であり得ないことだと思います。検証可能な目標を立て、それに関する議論を尽くし、その上で招致の是非を決めて下さい。札幌市に中身のある議論を行い意思決定を行う意思も能力もないのであれば、五輪は開催すべきではないと感じました。誤魔化しはなしで、議論が尽くされることを願っています。

- ・参加者から疑問が出ていた通り、初めから開催前提で話を進めているのがおかしい。フラットな姿勢で市民の声に耳を傾けるべき。結論ありきだから、何でも適当に「ご意見ありがとうございました」で済ませている印象。真面目に市民の声を聴くつもりがないように感じた。
- ・若い方たちのことを先に書いた。おそらく札幌市の職員は若い方の無知を利用して、その影に隠れていることでうまくやろうとしているのだと思っていた。しかし、むしろ札幌市も先に指摘したことを理解するリテラシーがないと考えると、そもそもオリンピック・パラリンピックをこれほど無邪気に不合理に進めたがるのがより理解できる気がした。札幌市は、本当にオリンピック・パラリンピックで札幌の魅力が世界に発信できて、世界から札幌に人がやってきて、人々が共生する街に本当になると思っているのだ。だから、いくらオリンピック・パラリンピックに反対する人の声を聞いても、何を言っているのか理解できない。そう考えれば札幌市の無邪気さも理解できる。世界に発信することになるのは、先にも述べた日本の女性差別であることは間違いない。東京五輪で実証済みである。世界から人がやってくるとしても、来るのは限られた富裕層である。在来線をそっちのけで開設される北海道新幹線に乗り、札幌駅にできる富裕層向け高級ホテルに泊まり、ニセコの高級コンドミニアムで過ごしていく人たちである。ますます貧しくなる日本と札幌の中間層にはあまり関係がない（札幌市の管轄ではないのであれだが、そもそも北海道新幹線を含めたJR北海道の経営がマズすぎて住民に恩恵があるとは思えない。どんどんサービスが縮小していつている。10年後の地域の足はスカスカになっているのではないか）。あるいはそういう

富裕層観光客の召使的な仕事はあるかもしれない。一方で、労働者としてやってくる外国人に日本は何をしているか。入管での長期収容、技能実習生に対する奴隷労働（これは本当に奴隷労働と呼ぶことが誇張ではないので学生の方は調べて欲しい）である。なんて素晴らしい共生社会だと思う。コロナの水際対策で、実際に日本への留学や企業進出が中止され始めているのも日本らしい。札幌市が共生社会！と若者たちと一緒にキラキラしながら言っている一方で、実際に起っているのはそういうことである。足元で起こっていることを見ようとせず、ひたすら共生社会！世界にアピール！と連呼する。東京五輪と一緒にではないか。でもそれを理解することはできないと思う。理解する動機がないからだ。腐っても公務員である。オリンピック・パラリンピックでどれだけ札幌市の財政が混乱しても、それでも食べていける（時間外勤務は膨大になるだろうけど。残業代はちゃんと支払われていますか？働いた分は正当に支払われて欲しいけど、それがオリンピック・パラリンピックのためだと思うと複雑だ。そのお金を私の生活に回して欲しい。あるいは、学生を海外で学ばせる費用に当てて欲しい。札幌市のリテラシーのなさは、教育の敗北だと思っている）。札幌市の職員は、自分たちがツケを負うことはないからそんなにも無責任に事を進められる、ということも本当に理解しているのだろうか？自分の生活をかけてオリンピック・パラリンピックをしようなどと、私は決して思わない。秋元市長は、さすがにここまで言ったほどには無知で純粋でもないと思う。オリンピック以外のことは、割とまともな政治家だと思っている。でも、オリンピック・パラリンピックに関しては、本当に卑怯な方だと思う。東京五輪のマラソンをどさくさに紛れて札幌で開催したこと、ずっと忘れない。なし崩し民主主義のお手本として教科書に載せる価値がある。そういう歴史書もいつか書かれるかもしれない。それくらいインパクトのある決定だった。色々書いたが、最後にはっきり書いておく。札幌 2030 冬季五輪招致反対です。今回のワークショップでその思いが確かなものになりました。

(5) アンケート結果 (2月12日)

<p>問1. 今回のワークショップをどこでお知りになりましたか？(複数回答可)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報さっぽろ/11件 ・SNS (Facebook/Twitter/Instagram など)/7件 ・札幌市ホームページ/4件 ・札幌市コールセンター/1件 ・大会概要案発表時/1件 ・設置チラシ/1件 ・家族から/1件 ・知人から/1件 ・テレビ/1件 <p style="text-align: right;">回答数:23件</p>													
<p>問2. 冬季オリンピック・パラリンピック招致についての情報は、理解しやすかったですか？</p>													
<table border="1"> <caption>問2の回答割合</caption> <thead> <tr> <th>回答内容</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>とてもわかりやすかった</td> <td>26.1%</td> </tr> <tr> <td>わかりやすかった</td> <td>26.1%</td> </tr> <tr> <td>ふつう</td> <td>43.5%</td> </tr> <tr> <td>わかりにくかった</td> <td>4.3%</td> </tr> <tr> <td>たいへんわかりにくかった</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	回答内容	割合	とてもわかりやすかった	26.1%	わかりやすかった	26.1%	ふつう	43.5%	わかりにくかった	4.3%	たいへんわかりにくかった	0%	<ul style="list-style-type: none"> ● とてもわかりやすかった ● わかりやすかった ● ふつう ● わかりにくかった ● たいへんわかりにくかった <p style="text-align: right;">回答数:23件</p>
回答内容	割合												
とてもわかりやすかった	26.1%												
わかりやすかった	26.1%												
ふつう	43.5%												
わかりにくかった	4.3%												
たいへんわかりにくかった	0%												
<p>問3. 問2について、どのようなことが理解しやすかったか、理解できなかったかをご記入ください。</p>													
<p>【とてもわかりやすかった】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に概要(案)が配布され、その上で説明があったため。 ・市長の熱意。 ・オリンピック・パラリンピック開催がきっかけで、どのような街づくりをしていくかや取組むか?を確認できた。 ・選手の方から見たオリンピックなど、参加しないとわからないようなことが理解できました。大会概要について、具体的な資料をダウンロードできたりすると良かったと思います。招致の前なので、あくまで予定で良いと思います。 ・人口減少やオリンピック・パラリンピック開催の予算。 ・特にビジョンは、将来の高齢化を踏まえできるだけ自立できるようにと、健康の維持やその環境を応援してくれものにとらえることができました。 <p>【わかりやすかった】</p>													

- ・札幌市のオリンピックに対する取組の考え方がよくわかった。
- ・具体的な予算。レガシーとして札幌市が期待している点。
- ・大会招致が街づくりに繋がっていること。
- ・前回大会から50年たち、人口減少の問題等も含めて良いタイミングだと思った。
- ・どのようなオリンピックを目指しているか理解できました。
- ・招致することは簡単ではないということがわかりました。

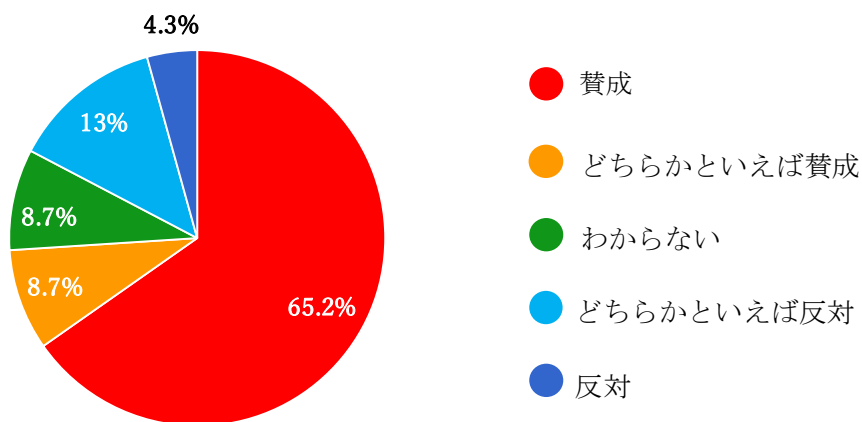
【ふつう】

- ・今回の東京大会で実感した、お金の使い道等の情報の透明性に関する説明にまだ具体性がなかったので、これから市民の理解を得ていくにはそこが喫緊の課題になるなと思った。
- ・競技会場や帯広でも開催するといった具体的な情報を知りたかったです。
- ・オリンピック開催の目的の一つに少子高齢化社会への対応とあったが、具体的なイメージがわかかなかった。
- ・短時間のため割愛だと思いますが、たとえば、800億円となっているが、年間予算、あるいは長期戦略と位置づけるのであれば、10年間の予算に対してどうという話をしたほうがよい。また、経済効果での増収は見込めるのか？もわからなかった。
- ・基本的に開催要項案を読んでいればわかることだったので。
- ・狙いが明確になっていない。
- ・招致の理由として人口減少が挙げられていましたが、オリンピックが少子化対策というのは響いてこないと感じました。
- ・WSでの説明は特に概要案以上のことはなかったので、事前に読んだ立場として普通を選択しました。
- ・矢張り『オリンピック・パラリンピック招致ありき』の前提が特に気になりましたね。
- ・一般的な内容でした。札幌市の将来の姿とタイムスケジュールをもう少し具体的、次の市民の是非を問う際は示して欲しい。

【わかりにくかった】

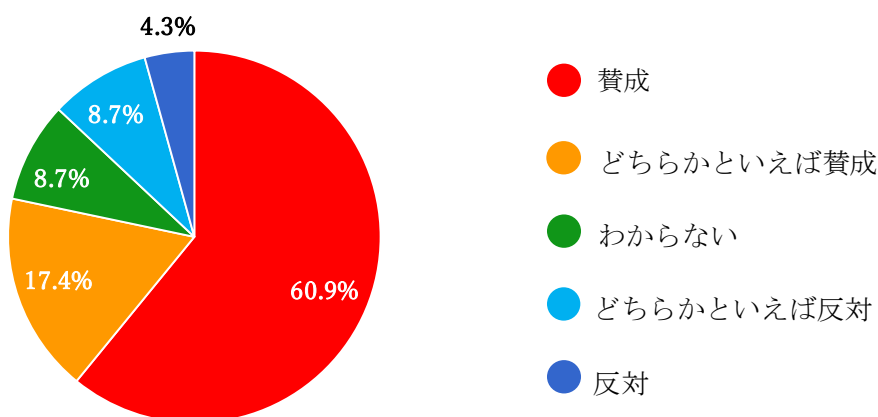
- ・時間の関係もあったと思いますが、「札幌市としてはオリンピックをやりたいんだ」ということは伝わりました。ただ、開催しなかったことによるデメリットや、開催したことによるデメリットということも含めて、今後説明や理解できる場があれば良いと思いました。

問 4. 今回のワークショップに参加する前は、札幌市が冬季オリンピック・パラリンピックを開催することをあなたはどう思っていましたか？



回答数:23 件

問 5. 今回のワークショップに参加して、札幌市が冬季オリンピック・パラリンピックを開催することをあなたはどう思いますか？



回答数:23 件

問 6. 問 5 で「賛成」、「どちらかといえば賛成」と回答された方
その理由について、次の中から当てはまるものを 3 つまで選んでください。

- ・子どもたちに夢と希望を与えるから/13 件 (72.2%)
- ・北海道・札幌市の PR につながるから/12 件 (66.7%)
- ・ウィンタースポーツの振興につながるから/6 件 (33.3%)
- ・世界中のアスリートの活躍を見られるから/6 件 (33.3%)
- ・国際交流につながるから/6 件 (33.3%)
- ・雇用創出や経済効果が期待できるから/5 件 (27.8%)
- ・まちのバリアフリー化が進むから/4 件 (22.2%)
- ・SDGs などの環境問題への取組が促進されるから/1 件 (5.6%)

回答数:18 件

問6. 問5で「わからない」と回答された方

その理由について、次の中から当てはまるものを3つまで選んでください。

- ・オリンピック・パラリンピックに対する期待と懸念の両方があるから/1件 (50%)
- ・大会についての情報が少なく、わからないことが多いから/1件 (50%)
- ・IOCと適切なリスク分担がされるのかわからないから/1件 (50%)
- ・不測の事態が発生した場合、税金が使用されるのかわからないから/0件
- ・2030年が先のこと過ぎて、現時点ではわからない/0件
- ・経済効果の実現につながるのかわからないから/0件
- ・競技を直接観戦できるのかわからないから/0件
- ・関心がないから/0件

回答数:2件

問6. 問5で「反対」、「どちらかといえば反対」と回答された方

その理由について、次の中から当てはまるものを3つまで選んでください。

- ・他の施策に注力してほしいから/3件 (100%)
- ・開催に多額の予算が必要だから/2件 (66.7%)
- ・オリンピックやパラリンピック以外の方法で
北海道や札幌市の魅力を発信することは可能だから/1件 (33.3%)
- ・経済効果は薄いと考えているから/1件 (33.3%)
- ・北海道/札幌市のみで解決が難しい災害や感染症など
不測の事態への対応が不安であるから/0件
- ・大会時に道路や公共交通機関の利用客が増加し、生活に支障をきたすから/0件
- ・大会で利用された施設が適切に管理・維持されるのかわからないから/0件
- ・オリンピック・パラリンピックが好きではないから/0件
- ・犯罪やテロが発生する可能性が高まるから/0件

回答数:3件

問7. 本日のワークショップの感想をご自由にお書きください。

- ・ゲストの伊藤みきさんのお話をはじめとして、ワークショップが招致推進の流れになっているように感じました。グループワーク最後のテーマが開催のレガシーというのに違和感を持ちました。ただ、秋元市長参加のもと、市民と対話する場を設けて頂いたことはとてもよかったです。今後はぜひ沢山の市民の意見を取り入れて招致の是非を判断して頂きたいです。今日はありがとうございました。
- ・いろいろな意見が聞けて良かったです。東京オリンピックの振り返りが不十分な中で、今回参加したことで開催地への立候補はどちらかといえば反対の立場であることには変化はなかったです。なので、限られた時間なのでやむを得ないですが、もっと他のグループの方の意見も直接聞いてみたかったです。
今後このような場を活用して、一市民としてオリンピックが開催されるのが良いことなのかを考えて行動していきたいと思いました。貴重な場を設けてくださり、ありがとうございました。

・まとめ役の大学生（ファシリテーター）がまとめで発表していたのはグループの意見の集約ではなくて、自分の意見だったのがちょっと残念でした。Gグループは全員「札幌オリンピック」を経験している世代でしたが、皆さん成功体験はあるのですが矢張り『実際に予算内に収まるのか？』という点が最大の疑念だったと私は理解しています。

私の意見は、市民の多く（少なくとも成人の70%）が賛成するのであれば開催しても良いと思いますが、個人的には一過性のオリンピック・パラリンピックなんかではなく他の事業（例えば、大雪害対策等）に予算を重点的に配分の方が今後百年を見据えた施策としては遥かに市民のためになると判断しています。

例えば、数百億円規模で超巨大融雪施設を建築して地下からボーリングをして温泉水を汲み上げるような大事業を成功に導くのであれば、【オリバラ誘致で札幌市の財政破綻を招いた市長】としてではなく、『札幌市の雪害問題を根本的に解決した名市長』として札幌市史に末永く記録（記憶）されると思いますが、こういう提案は如何でしょうかね…

4 シンポジウム (YouTubeによるライブ配信とアーカイブ動画配信)

(1) 開催概要

ライブ配信日時	令和4年(2022年)2月20日(日) 13時30分～15時30分
プログラム	① 開会 ② 「オリンピック・パラリンピックを通じたまちの姿について」 秋元市長 ③ 基調講演「オリンピック・パラリンピックと共生社会」 荒井 秀樹さん ④ トークセッション 阿部 詩さん、山本 優さん ⑤ パネルディスカッション ⑥ 閉会
出演者	阿部 詩さん 【東京 2020 大会：柔道女子 52kg 級 金メダリスト】 荒井 秀樹さん 【パラノルディックスキー日本チーム ゼネラルマネージャー】 小高 咲さん 【株式会社北海道二十一世紀総合研究所 副社長】 山本 優さん 【東京 2020 大会：ソフトボール 金メダリスト】 秋元 克広 【札幌市長】 司会：吉野 圭子さん 【フリーアナウンサー】

(2) 配信内容の概要

◇「オリンピック・パラリンピックを通したまちの姿について」 秋元市長

秋元市長から「オリンピック・パラリンピックを通したまちの姿について」というテーマで、「なぜオリンピック・パラリンピックを招致するのか?」、「大会によってもたらされるものは何か?」という観点で説明しました。

【「オリンピック・パラリンピックを通したまちの姿について」配信動画 抜粋】

2030年、なぜオリンピック・パラリンピック招致なの? 2030年

■ 次期まちづくり戦略ビジョンの策定
◎ 次の新たな100年に向けた、2022～2031年度（10年間）のまちづくりの基本指針

- ・ 少子高齢化、人口減少
- ・ 共生社会の実現
- ・ 脱炭素社会の形成
- ・ 都市のリニューアル
- ・ デジタル化の推進
- ・ 自然災害や感染症など危機への対応 など

各分野など 高利得

ユニバーサル (共生)	・ バリアフリーの推進（移動経路、建築物、心のバリアフリー等） など
ウェルネス (健康)	・ 健康寿命の延伸（市民の健康活動推進、ワークアプルなまちづくり等） ・ 人生100年時代の学びと社会参加（学び直しの機会充実等） など
スマート (快速・先導)	・ スマートシティの推進（行政と地域社会のデジタル改革、スタートアップ等） ・ ゼロカーボンへの推進（再生エネルギー普及・拡大、水素活用、ZEH・ZEH+等） など
人口減少の緩和	・ アフターコロナの行動変容を見据えた人口減少対策（テレワークの普及促進等） ・ 大学との連携（若者の地元定着、新規ビジネス創出等）
都市空間	・ 都心（北海道新幹線の札幌延伸等を踏まえたまちづくり等） ・ 接点交流拠点・高次機能交流拠点

◇基調講演「オリンピック・パラリンピックと共生社会」 荒井 秀樹さん

パラノルディックスキー日本チーム ゼネラルマネージャーの荒井 秀樹さんから「パラリンピックと共生社会」というテーマで、過去に参加したパラリンピック開催各国におけるバリアフリー化の現状や課題、2030年の札幌大会開催に向けて「する人」、「支える人」、「見る人」のそれぞれを増やす取組みを行うことで国内パラスポーツの振興を目指すといった内容のお話をいただきました。

【基調講演「オリンピック・パラリンピックと共生社会」配信動画 抜粋】

2030に向けて

北海道 札幌で
パラスポーツを盛んにする

札幌の取組み

- 「する人」を増やす
 - ・ シフトスキー指導員
 - ・ 新設チーム育成
 - ・ パラスタート競技
- 「支える人」を育てる
 - ・ 大学での授業
 - ・ 指導者講習会
- 「見る人」を増やす
 - ・ 国際大会開催
 - ・ 中学校での授業
 - ・ パラ選手との交流

◇トークセッション

東京 2020 オリンピック柔道女子 52kg 級金メダリスト 阿部 詩さんと東京 2020 オリンピックソフトボール金メダリスト 山本 優さんをゲストとして呼びびし、「選手からみたオリンピック・パラリンピックとは」というテーマを対談形式で語っていただきました。

【トークセッション配信動画 抜粋】



◇パネルディスカッション

「オリンピック・パラリンピックに秘められた力」、「オリンピック・パラリンピックでどう変わる？自国開催の効果」、「オリンピック・パラリンピックで描く、未来」という3つのテーマに沿って、5名のパネリストの皆さんにパネルディスカッションしていただきました。

【パネリスト】

- ・ 荒井 秀樹さん (パラノルディックスキー日本チーム ゼネラルマネージャー)
- ・ 阿部 詩さん (東京 2020 オリンピック柔道女子 52kg 級 金メダリスト)
- ・ 山本 優さん (東京 2020 オリンピックソフトボール 金メダリスト)
- ・ 小高 咲さん (株式会社二十一世紀総合研究所 副社長)
- ・ 秋元 克広 (札幌市長)

【司会進行】

- ・ 吉野 圭子さん (フリーアナウンサー)

◇パネルディスカッションでの主な発言内容

○荒井 秀樹さん

「札幌の中島公園では、シットスキーを無料で貸し出ししています。1年を通してスポーツができるという環境をしっかりと整えながら、スポーツを手軽に行うという流れを推進していくことで、北海道ならではの観光資源を作り、札幌・北海道のまちを変えていくことが重要になってくると思います。」

○阿部 詩さん

「札幌は、冬の競技に取り組んでいる選手からすると、非常に素晴らしい環境だと思います。まち全体が1人1人の選手を応援するまちだと、より一層日々の練習に取り組むモチベーションに繋がっていくと思うので、札幌がそんなまちになって欲しいなと思います。」

○山本 優さん

「私が個人的に1番大切に思っているのは、オリンピック・パラリンピックが子どもたちの夢や目標になってくれることです。スポーツの素晴らしさだけでなく、世界の方たちとつながることで、広い視野を持つことができるのも、オリンピック・パラリンピックの意義だと思っています。」

○小高 咲さん

「冬季オリンピック・パラリンピックには、ベースとして大自然・雪・氷というのが、不可欠です。冬のスポーツができる土壌がある札幌・北海道は、ウィンタースポーツ・スノースポーツという文化を将来にわたって維持・継承していかなければならないと考えています。」

○秋元市長

「オリンピック・パラリンピックは、環境問題への取り組みや共生社会の実現、多様性を認めるという土壌のある札幌・北海道の良さを世界に発信していくための最高の機会だと思っています。そのためにも一人ひとりの皆さんがまちづくりの当事者として、オリンピック・パラリンピックをこれからの札幌をどういうまちにしていきたいかを考えるきっかけとして考えていただければと思います。」